

# 幼兒の教育



第十四卷 第十二號 第二十二號

東京女子高等師範學校  
日本幼稚園協會

東京女子高等師範學校附屬幼稚園編 (五版)

# 改訂 增補 系統的保育案の實際

定價 金壹圓參拾錢 送料 金 六 錢

初版以來廣く參考の資料とせられた本書は、時局下幼兒保育の再認識と、特に國民學校の新制に對する用意の必要とから到底舊版のまゝに止まることを許されなくなりました。全體に互る改訂と増補を以て茲に此の新版を供する次第であります。

日本幼稚園協會編

## 幼稚園談話集 (四版)

菊版三五〇頁 定價金壹圓五拾錢  
送材料市內金六  
地方北海道臺灣  
埠太・朝鮮・滿洲 金 拾 五 錢

東京女子高等師範學校附屬幼稚園編

(再版)

## 觀察の實際

菊判一三〇頁 定價金 壹 圓  
送料東京市內金六錢 其他 金 九 錢

## 幼兒の教育 (月刊)

一ヶ月 金參拾五錢 送料金一錢  
一ヶ年 金四圓貳拾錢 送料共

六六二七一 京東警振

會協園稚幼本日

五三塚大・川石小・京東  
內園稚幼屬附師高女京東

# 生徒募集

## 本科生四十名 研究生若干名

願書受付三月二十日迄規則書は参錢切手  
封入の上申込まれよ。

創立以來廿七年。

大正五年東京市麴町區に創立。

昭和二年武藏野の中なる現在地に新築、

附近に森あり、野あり、川ありて四時自

然の恩恵を受け、本校の特色とする自然

觀察、博物採集、圖畫寫生、自然物應用

の手工等材料豊富なり。

### 玉成保姆養成所

所長 ソフアヤ・アラベラ・アルウ井ン

東京市杉並區西高井戸一丁目一三三

省線 西荻窪下車直南約五丁

倉橋惣三編 (新刊)

# 新體幼稚園唱歌

四六倍判  
定價(送料共)  
金七拾錢

目 日本の旗日の丸の旗  
倉橋惣三 作曲  
小松耕輔 作詞  
次 道 ぶ し ん  
倉橋惣三 作曲  
井上武士 作詞

いうびんやさん 倉橋惣三 作曲  
弘田龍太郎 作詞  
渡し場の船頭さん 倉橋惣三 作曲  
中山晋平 作詞  
火消しのなごさん 倉橋惣三 作曲  
小林つや江 作詞

日本幼稚園協會編 (新刊)

# 幼稚園新唱歌

四六倍判  
定價(送料共)  
金五拾錢

目 だ か  
小松耕輔 作曲  
小杉山米子 作詞  
次 雨 小松耕輔 作曲

ほ た る  
青山綾子 作曲  
小松耕輔 作詞  
ぶ し ん 場  
氏原銀 作曲  
小松耕輔 作詞

○この二つの新刊幼稚園唱歌集は、幼稚園の爲に新しい歌曲を求めて居らるゝ方々に必ずや充分歓迎せらるることを期待してゐる。



# 對米英宣戰・億兆一心征戰必勝



## 第四十一卷 幼稚園教育の第二十號

### 目次

扉

國民幼稚園の名に於て(十)……………倉橋惣三(三一)

幼稚園の遊具(四)……………佐々木等(三)

國民學校藝能科音樂の本旨、實際及音感教育……………井上武士(五)

慰問品のお店―誘導保育の主題……………安村ふさ(二〇)

數あそび……………上遠文子(三)

各地保育會の活動大分縣保育會の沿革及事業の概要……………天門成章(三五)

幼兒の母……………(二七)

#### 誌上保育講習

國民學校ニ幼稚園保育の實際……………倉橋惣三(三三)

國民學校國民科指導の精神……………竹下直之(三五)

幼稚園遊戯……………戸倉ハル(四〇)

幼稚園手技……………及川ふみ(四三)

本誌第四十一卷總目次……………(四四)

新發賣!

# ● 森永クレヨン

定價◎ 一箱

## 特 徴

- 一、本クレヨンは從來の蠟質クレヨンの缺點を改良して、國策的見地から創製された最優秀品で他製品とはその質を異にした唯一のものであること
- 二、文部省撰定の標準色に正しく合せ、鑛物質のために変色褪色の心配のないこと
- 三、バステルのやうに指に着かず粉が飛ばず紙面を汚さない上に、消ゴムの使用が自由なこと
- 四、定着力が強く畫面が悪光りせないと共に、バステル畫風、油繪風に指導が容易なこと
- 五、重色混色が自由で發色が良いこと
- 六、火に温めて鉛筆のやうに尖らすことも出來、また細線が自由なため、圖案、デッサンにも適すること
- 七、蠟製品に比し消費量(減り方)の少ないこと、また折口を温めて接合が出来る經濟的なこと
- 八、鉛分を含まないから絶對的に無害衛生品であること
- 九、襖や蠟等に附着した場合消ゴムで落ちること
- 一〇、暑熱のため曲らない、ねばらない、その上に古くなるほど益々特徴を發揮する事

推薦の辭 東京美術學校教授 松田義之

今回森永配給會社から發賣することとなつた森永クレヨンは全く新しい創製で、而もいろいろの點に優秀であるやうに思ふ、即ち先づ商工省が優良なる製品たることを證明してゐる、而も從來の

(文部省認定標準色)  
商工省指定一級品

金二十九錢 (十一色保育用)

ものと原料を異にし、非常に多量に製産し得る可能性がある由である、この點誠に頼母しい、發色もよく色相も標準色に合致してゐる、混色も自由であるし、手につかぬ、經濟的でもある、また他のクレヨンに見る、いやな光澤も少ないから色の品がよい致して推賞する所以である。

前東京市(圖畫手工擔任)視學 宮本幸惠  
東京市日野工業青年學校校長

接合出来る經濟的なクレヨン

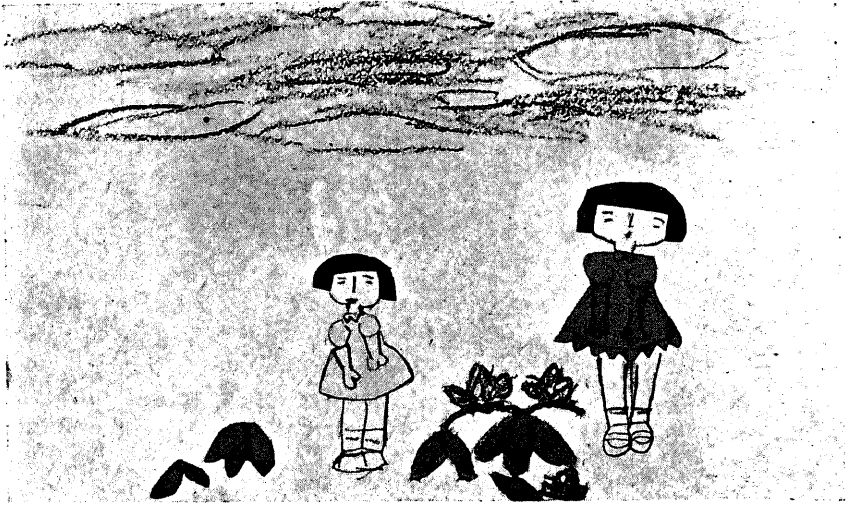
圖畫用具の中で、一番問題になつてゐるのは、恐らくクレヨンである、此はクレヨンが其重要であるのに、幾多の缺點を持つてゐるからである。(一)よく折る。(二)蠟分が多くて紙に載らない。(三)線畫が出來ない。殊に昨今資材の不足に伴れて、益々其實が低下し、クレヨン改良の聲は、今や兒童教育上切實緊急の問題である。然るに「森永クレヨン」は從來の三大缺點を遺憾なく改良したことは勿論色澤鮮明で實に標準色と一致し、混色が自由で又ゴムで消すことも出來れば萬一折れても燻めれば容易に接合することも出來、甚だ經濟的である。即ち圖畫教授の上に又使用管理の上に極めて適當である。

### 注 文 方 法

- 一、御注文はハガキにて數量明記の上東京保育研究所奉仕部へ御申込み下さい。御注文書到着と同時にすぐ御送り致します。
- 一、代金は引換または納品後一週間以内に御拂込み(振替口座東京一六七〇四二東京保育研究所)下さい。
- 一、見本御入用の方は金三十二錢(郵税共)振替口座へ御拂込みの上御請求下さい。直ちに一面御送り致します。
- 一、補給用として各色(赤、青、黄、綠、空、紫、茶、鼠、橙、黄、土、黒)御希望の向きはハガキにて御問合せ下さい。

### 東京保育研究所奉仕部

東京・神田一ツ橋・教育會館  
電話九段四一五一―四一五五番  
振替口座東京一六七〇四二番



お芋掘りにつれて行つて貰つた楽しい  
記憶が、鉄を通して活きくと出たのが、  
此の切り紙である。一つ／＼芋を切り抜  
いて、そのころがつてゐるのを集めて、  
こゝろいふ風に、もとの蔓につけて見たの  
が、此の貼り繪である。

切り紙貼り繪一ケ年。作家の勞を謝し  
て、今年のお絵口上を了る。

(倉橋生)

# 國民幼稚園の名に於て

（十）幼稚園令の改正

倉橋惣三

以上、國民學校の名に於て、いろいろさまじいことを考へて来た。そして、たゞ考へただけでなく、眞に國民幼稚園としての實現を望んで来た。斯くて、種々の努力が要求せられるのであるが、その要求の一つの到りつくところは、幼稚園令の改正である。

幼稚園令は、大正十五年の制定である。今にして當時を思ひ起せば、誠に欣慶至上の思ひのしたことであつた。それ以前は、獨立の教育令として幼稚園の規定が無かつたのである。それを新令として公布せられた當時の當局に對する感謝を忘れることは出来なかつたのである。その公布と共に發せられた文部大臣の訓令は、幼稚園の社會的職能を明示することに於て劃期的のものであつた。

しかし、年を経るに共に、細部の諸點に於て改正の要求も次第に起り來り、卒直にいへば、早晚その必要があつたことも見られた。そこへ、あらはれたのが教育審議會の答申としての幼稚園に關する要綱である。その主旨に基いて、幼稚園令改正の必然は暗示せられてゐた。更にそこに、國民學校の制定によつて、幼稚園令改正は、必然をそのまゝに急務として感ぜられ來つた。またですか、いつからですか、といふ聲が全國に起る程、それはたゞ時の問題のやうにさへ感ぜられ來つた。

その改正内容に就ては茲に簡單に論定することを慎まなければならぬ。大いに研究し、廣く諸見を集め、現下の必要に即し、將來を見透しての、眞に周到な改正でなければならぬ。殊に大に積極的な改正でなければならぬ。

その積極性は之亦諸方面にあらはれなければならぬが、國民教育としての意識の強調はその第一でなければならぬ。個人的教育意識から、社會施設的意識へ、社會施設的意識から國民教育的意識へ。之れは是非改正の上にはあらはれなければならぬ要點である。これを更に實際的にいへば、皇民の基礎的鍊成をなす國民學校の正しき、而して積極的な關係に於て、幼稚園の職能が必要さがハッキリせられなければならぬ。

幼稚園そのもの、規定の改正と共に、保姆の資格養成が、併せ改正せられなければならぬことも論を俟たぬ。それなくして、幼稚園の内容と方向とを、實にすることは出来ないからである。

更に、幼稚園令の改正が、たゞ幼稚園令の從來のまゝの存在としての改正にとどまらず、國の幼児の全般的問題として、廣き視野のものに綜合展開せられなければならぬことも、附言せざるを得ぬ。保育所との關係の如きその一つである。而して國家の幼児の保育を一元的に考へることが、國民幼稚園の名に於て、われ等の思維であることは言ふまでもない。



# 幼稚園の遊具

(四)

東京女子高等師範學校教授

佐々木 等

一  
幼児の精神の發育狀況が遊具に對する具體的な行動上に大なる關係のあるさいふこまがわかるこま、思はれるのであります。

彼のお人形について幼児がどんなに興味を感じるものがありますか、これに對しては私よりも皆様の方が遙かに澤山の經驗を持つて居られるこま、信ずるのであります、私の狭い經驗から申しますと、幼児の精神教育は何さいつても幼稚なものでありますから、大人が考へるお人形さいふ完全無缺な形態を考へては居ないのであります。

従つてお人形を大人が考へて之れは申分のないものであると折紙をつけたところのものよりも、眼もない、手の指も、足の指もない只お人形の恰好丈けたものを幼児は寧ろ好んで大事にするさいふこまを申上げたいのであります。

其處が大人と幼児のお人形に對する觀點が違ふのでありまして、これは一に精神教育に起因するものさいふべきであります、此様なこまを目前に見せつけられます、幼児の遊具さいふものは完全無缺なもの、大人が考へたものよりも、不完全なものでもよいではないか、言はゞ原始的な、素朴的な、自然的なものが幼児の遊具として適して居るさいつてもよいではないか、前々號かに登樺のこまを申上しましたが、あれなごも自然木を得られない都會地さか平原地さかの子供達に止むを得ないものとして工夫されたものであります、自然木の澤山ある山村等に於ては寧ろ無用の長物さいつてよいものなのであります。

元々登樺の創意は、自然木から來たのであります。斯様なわけでお人形にしたところで、實物があれば何も泥や布で作つたものが必要ないであります、前述せる様に幼

兒は精神の教育が不十分なものでありますから實物の赤ん坊でも與へ様ものなら彼等は眼を突いたり耳を引張つたり大變なごこちにして仕舞ふから、こうしたものは、赤ん坊に擬へて作つたお人形なごに代用せしめるごこちがよいのであります。しかし其他のものは成るべく實物に近い即ち、自然に近いものゝ方がよいと思ふ。その意味に於て、眼も、耳も、鼻も、口も具へたお人形がよいわけではあります。彼等は精神教育不十分なごころから完全なるものではなくごも、完全なるものご考へてそれを持つて遊ぶごいふ様なものではないでせうか。

又彼等に完全なものを與へるよりも、幾分不完全なものを與へる方が、自然ご違ふではないか、さうして比のお人形に眼がないだらうごか、口がないだらうごか、想像力を發動せしめるごこちになるのではないか、即ち不完全なものを與へたが爲めに却つて精神の教育を促進するごいふ結果になるのではないか、此處に教育的な意味がありそうなのであります。

## 二

ペン先の工合で期節向でないお人形のごこちなごを述べましたが、皆様を幼兒ご考へてペンを走らした譯でもありませんから何卒お怒りのない様にお願致したいと思ひます。尤、お怒りになられた方には好都合なのであります。

て、原稿を書かなくて済みますから大變氣樂になつて參りますが、そんな意味で書いて居るのではありませんごご丈を御了解願ひたいと思ひます。

飛繩 さて季節向の遊具ごして何を擧げたらよいものやら昔日見當がつきませんが、最も素朴的なものごして飛繩を推奨したいと思ふのであります。しかし、この飛繩なごはごうの昔から用ひて居られるごこちご思ひますが、私は運動の方面から殊に、冬の寒い季節に行ふ幼兒の運動ごして述べるのであります。

此の時代の繩跳は自分で廻はして跳ぶごいふごこちよりも、お友達が持つて居るのを跳ぶごいふ方がよいと思ふ。

その繩跳の繩は、ゴム繩が彼等に最も好まれるごころのものであります。今日ではそれが得られないから、田舎なれば藁によつてつくつた繩か、何か緒でもよいのであります。その長さは三米位を適當ごしませう。

その繩を塵埃のたゞないごころで揺り動かしてそれを跳ばせるがよいごこの遊は、至極簡單の様であります。運動から見まするご種々の要素が含まれて居るのであります。

一般に子供達は大波小波ご稱して居ります。幼兒には大波は無理であつて、小波の方が適當して居るであります。身體支配の能力の低い時代の此遊は、自分の位の判斷が必要であります。繩から遠い位置の時は容易にその繩を

跳越せない。又、繩は或律に動いて居る。その律によく乗れない時は跳べないことになる。

低い高さの繩を跳ぶさいふ丈けのものでありますが、彼等は眞剣そのものであります。即ち全靈を此の繩を跳ぶさいふこゝに打込んで行動するのであります。即ち、精神の統一を自然的にはかつて居るのであります。かくして全身の調和的發達が此の繩跳によつて期待されるのであります。

一般に跳躍力の強いさいふこゝは其の健康度を卜するこゝが出来るなき、言つて居りますが、これは大した問題でないかも知れませんが、跳躍力の強いさいふこゝは結局身體の移動力の強いさいふこゝになるかも知れませんが、元氣なわけになるのであります。

さういふ意味から、幼兒の繩跳なきも出来る丈けやらして見たいと思ふのであります。そして子供達は好んで行ふものなのであります。只前にも一寸述べましたが、塵埃の立たない場所か、塵埃の立たない様に工夫することを忘れたり、意つたりしてはいけません。

それはあまりにもわかり切つた衛生上の問題で、教育的な意味で、國家的の見地から問題となるのであります。以上は幼兒の遊具としてはあまりにも單純なものであります。體育的な價値は十分に認められるところのものであるのであります。

殊に寒い季節になるに、全身的の運動によつて暖を取る必要があるからです。こうした素朴な運動によつて、全身の調和的發達を促進することは適當したるものさいつてよいであります。

尙、此の繩が相當強いものであることを要すると共に、その強い繩を他の方面に利用し得ることを見逃してはならない。即ち、繩跳用の繩を一本なり二本を相當しつかりしたものに結付け、その繩の端を持つて漸次結付けた元の方へ繩を手繰つて行く時はほゞよい快感を味ひながら引く力を養ふこゝが出来るのであります。幼兒達の好んで行ふものであるに違ひないと思ふ。しかし、現にかゝる工夫をして居るこゝろは恐らく日本廣しき雖も、試みて居る人はないであります。

眞に子供のこゝろを考へ、眞に國家の將來を憂ふる姊は此自然の遊びの効果を試して見られたらよいと思ふ。此の體育的意義については皆さんに考へて頂くこゝろにませう。洵に語らんこゝろを述べましたが何卒、愚見を御ゆるし下され是迄述べましたこゝろを年の暮に一切御忘れ下さることを希ひます。お忘れになつた大方は一度是非私の申述べましたこゝろを讀返してからお忘れになつて頂きたいと思ひます。では時局下に於て可能な丈けのよいお年を迎へられる準備をなさつて下さい。(一六、一一、八)

# 國民學校藝能科音樂の本旨・實際

## 音感教育

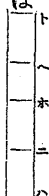
— 講演筆記 —

東京高等師範學校教官 井 上 武 士

### 五、和音の訓練

次に和音の訓練ですが、國民學校では「ハ調」の各度上の三和音と五度の七の和音だけをやります。一年生はこの中で一度と、二度、三度をとり、しかも一度はそのまゝ「ハ」ホト」をこつてゐます。——ウタノホンカゴ、四度のは、「ハ」をオクターブ下げて「ハヘイ」にし、五度のも「ロ、ニト」ミ上二音をオクターブ下げてあります。

一度の和音「ハホト」はハ調にこつて大切な和音で、これをハ調の主和音といひます。「ハホト」は



で上が短三度、下が長三度の形でこれが自然の形です。これを逆にして上を長にし、下を短にするこ不自然になります(ピアノによる)。次に「ハホト」の「ト」を土臺に三和音「トロニ」をつくるここれも同様の關係になります。これを(上)

属和音といひます。次に下の音「ハ」を上にし下属和音「ハラド」をつくるここれも同様の形態です。この三和音を主要三和音といひます。これはこの三和音がハ調にこつて大切だからです。何故主要かといへばこの三和音によりその調子を決定することが出来るからであります。この三和音中にハ調に属するすべての音が入つてしまふからであります。一年は即ちハ調の主要三和音を選んだのです。何故かといへばこれを徹底させれば七幹音は既に憶へたことになります。故に一年の和音訓練は最も大切だといへるわけです。こゝから、國民學校前の幼稚園が如何にすべきかも考へることが出来ると思ひます。

二年ではⅡ、Ⅲ、Ⅵ度を入れ——うたのほん下46頁——三年ではⅦ、Ⅴをやります。主要三和音に對し、副次三和音といひます。

かういふ和音をつかつて國民學校ではこんなことをやるのか、さういふのを和音訓練といふかを次にお話しませう。

(イ) 聽音 先づ聽音です。四月はその準備期であります。それは音に注意させることです。これは幼稚園でも注意してもらはねばならぬ。

聽く態度をつくる事が第一、聽き得ることは第二であります。一年では先づ二音を出し、どちらが高いかをきかせ、二音をだん／＼近づけてゆくのです。判らなくても判らうと思つて注意して聽くといふ態度の訓練が大切なのです。かうして五月には、ハホト音を出します。「ハホト」といはずなくとも聽えたといふ表現(例へば立つ動作又は赤いカードを出させる等)をさせるのです。この場合たゞ一音としてきかせる事が大切で、ハミホミトミわけてきかせてはならぬし、又外の音をきかせてはいけません。一ヶ月間この「ハホト」二音のみをきかせます。子供がわかりよくて、先生がよく見えるやうな形をこるのがよいのです。決してあせつてはいけません。私は六月一杯かゝつて、二和音をやり、二音の區別がつくやうになつたら、七月に次の第三和音に入ることにしてゐます。これらの音は耳で直感的に區別するので頭ではありません。これを一學期にやります。それ以前の教育を幼稚園でやつてもらひたいのです。幼稚園で三和音をやるのは最高です。眼によつて頭で分解

して區別するのでなく耳でするのが大切なのです。更にすゝむ。

(ロ) 音名と結合。(九月) 音をきゝわけりやうになるに、この音はこの音なのだき書いてみせます。即ち視唱と和音訓練とが結合されるわけです。かうして「ハホト」を答へさせるやうにするのです。これは同時に和音の書取にすゝむのです。ウタノホン表紙の裏の五線上におはじき等でおいてみせるのもよいでせう。かうして「ハヘイ」「ロニト」の書取にも進みます。

(ハ) 分散和音唱(十月頃) これは例へば「ハホト」をハミホミトの個々の音に分つて唱ふのです。これは歌唱の音程訓練音高の記憶等にも導かれます。かうして十一月に「ハヘイ」の、十二月に「ロニト」の分散和音唱を行います。

(ニ) 單音抽出唱(第三學期) 第四段階として和音からその中の一音をぬき出してうたふことをします。

一年としては以上の四つが大切であります。この外出来れば和音合唱をやりませう。

歌唱、視唱、和音訓練の三本立はやがて集り、和音記憶、幹音の音高記憶といふ線に向つてゐるわけであります。

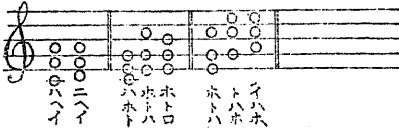
## 六、和音訓練の實際

聽音 ハホト、ハヘイ、ロニト、  
分散和音唱の練習

單音抽出唱の練習  
和音合唱の練習

出来れば三月末にはハホトの和音合唱をしてもらいたいです。

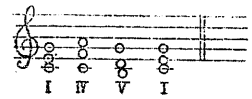
一年生ではこれらのことをするのですが、二年になるに更にニヘイ、ホトロ、イハホを教へます。「ニヘイ」は「ハヘイ」の「ハ」が半音上つてゐることをきゝわけさせ「ニヘイ」を教へてもよいのです。「ホトロ」は「ハホト」から「ホト」



「ハ」、更に「ホトロ」を教へ、同様に「イハホ」は「ホトハ」から「ホトハ」から「トハホ」、更に「イハホ」を導けばわかりやすいでせう。(圖示)

さうして、分散和音唱、單音抽出唱をすゝむのです。一和音を大體二ヶ月位かゝつてやります。如何に慎重にするかとおわかりでせう。したがつて幼稚園ではあせらず、子供に無理なことを要求せぬやうに、そして子供を神經質にしないやうにする事が大切であります。

更に三年以上のこゝを少し話します  
更に三年以上のこゝを少し話します



四年には更にト調の曲があり、嬰へ音いふ派生音及びへ調の變ロミいふ二音が新しく出て來ます。(圖示)五年には嬰へ音、六年では變ホ音いふ派生音が出る。要するに、一年から六年までに七幹音の四派生音しか扱はないのです。

七、幼稚園の音楽教育に對して

以上で國民學校の音楽教育の大體のねらひところをその實際をお話したわけです。これから推して幼稚園でのやり方もお察しがつかれたこゝと思ひますが御參考までに私の想像を申し上げてみませう。幼稚園は保育であります。

教育でもなく、教授でもなく、特に保育といふ名を以てよばれてゐます。この點をよく考へて、子供の心身發達に副はしむべくやつていたゞきたいのであります。

歌唱は子供の生活の中で重要なこゝであります。したが



つてみんな歌を選ぶかは重要な事柄です。それは國民學校の教材でもよいのですが、もつみやさしいものを選ぶべきであります。今迄の幼稚園の歌は難しすぎました。易しいもの、音域のせまいものを選ぶべきです。一年生の音域は



シからシまでです。幼兒に無理のない音域をえらぶべきで、廣くとも一年生位の音域といふ事を大體頭に入れておいていたゞきたいものであります。なほ、一年から三年まで幹音のみでやるのですから、幼稚園でも當然、派

生音を使はぬものをえらぶ事が大切であります。

あまり簡單な曲だゞ先生や親が満足しないといふ傾向があります。これは子供に不親切なことです。なほ、發聲、發音にも注意することです。子供に大きな聲で歌はせるのは無理な要求で、子供の話聲から發展した小さい聲が普通なのです。發音も悪いのを正すこと、「エ」「シ」「エ」「イ」等、又は、國民學校の發音型を考慮すること等が大切です。

次に遊戯の問題ですが、これは音楽との關係が頗る密接であります。遊戯をする事により音楽を體得したり、表現したりすることも考へねばなりません。従つて音楽を理解した人の振付けでなければなりません。遊戯をやることにより、音楽を一層體得するやうに選び、且指導するやうに

願ひたいものです。

また音楽の強拍と左足とがあはねばならぬといふことも考慮にいれていたゞきたい。つまり體のリズムと音楽のリズムとがあはなければいけないのです。音楽に強拍、弱拍がなければ生命のないものになります。では左足が何故強いかといひますと、人間は手は右利き、足は左利きなのです。ですから行進曲の一拍に左足をあはせる事なども考へるべきで、これは遊戯の行進の時、又振付の時等に考へるべきことだと思ひます。

次に聽覺訓練に大切なことは和音を憶へさせたり、遊戯をこれに組み込んだりすることではなく、音に對する感覺の陶冶であります。知識の問題は後でも出來ますが、感覺の陶冶は幼い時からやつてもらひたいものです。我國で藝事は六歳の六月六日に始めねばならぬといふのは一理あることであります。指の筋肉、耳の感覺の訓練は是非幼時からせねばなりません。音をきくこと、區別すること等の訓練を、幼稚園の先生方に望みます。

家庭に音楽が入つてゐることは非常に大切なことです。その意味でピアノ、ラジオ、レコード等の音に親しませることが大切です。音程も大切です。最初の一音を正しく出してやつてそれにあはさせればよいと思ひます。

(質問) 派生音を音名でよむ時にはどうよめばよいのです



# 慰問品のお店

誘導保育の主題

附屬幼稚園 安村 ぶさ

平時ならば暮の大賣出しに、街も、幼稚園も賑はふ頃でございますが、今年と同じ大賣出ししても時局向きのものを、かうした遊びを致してみました。

事變下の子供達は、兵隊さんに對する感謝の生活の中に育つたのでございまして慰問袋を知らないとか、お送りした経験がない等ご申すものは殆どございませぬ。慰問袋の事は、屢々話合ひの話題となり、又童話の中に出て來て、十分な知識を持つてゐるのでございます。

或る日、やはり、さうした童話のあいで、今戦地にお送りすれば丁度お正月頃に着くのです等さいつた事から、皆で子ぎもの慰問袋を作らうといふ事になりました。早速、内容の相談になりました、畫、貼繪、お人形、飛行機、繪本、罐詰類、キャラメル、その他、おもちや等、自分達の經驗をもこにしたものが發表されました。かうした子供達の答を整理して、大體次の十種を作ることに相談がましまつたのでございます。その中のあるものは組中のものが一

つづつ作り、又あるものはグループで分擔して、協同して作ることに致しました。そして出來た品物は一旦お店に出します。品物が豊富になつたなら、このお店から各自好きなものを買ひ入れて、慰問袋を作るわけでございますが、その中で實際に慰問品となるものは、本當の慰問袋に入れてお送りする事に決めました。作り方は皆申すまでもないもの許りでございますが、あらましを述べてみます。

(一)罐詰 糊の空罐を利用します。レットルは畫用紙又は葉半紙でよく、糊の罐の高さに糊代をつけたもの、上下の圓形の部分に貼るもの二枚が要ります。横の部分に自分の好きな罐詰の繪を描かせ、上下は夫々罐詰らしく致します。尚、罐の上下が罐詰らしい模様のもは却つて、そのまゝの方が良い。又蓋をあく様にして中に其の罐詰のものを作り入れておくのも面白いと思ひます。

(二)小箱利用の食料品 化粧品の空箱又は小さい箱を夫々の形に應じて面白く利用し、お茶、海苔、梅干、氷砂糖

等のレッテルの繪を描いて貼りつけます。キヤラメル等は實物の空箱を利用して良いが、レッテルでさう見せても面白いものが出來ます。

(3) 便箋 丁度有合せの藁半紙用のものがありましたのでそれを利用しましたが、普通の藁半紙でしたら半分か四分の一位にして用ひます。隅又は周圍に繪を描き出來たらくくの筋を引かせる三立派なものになります。繪を描いた後は上部から一纏位の所にミシンをかけ、その上を全部糊で貼り、表紙をつけ、綺麗な紐で結びます。一人五枚位が適當かと思ひます。

(4) 封筒 長封筒、角封筒等形を與へ、それに圖案を描かれます。

(5) こま 圓形こま、角こま等種々ありますがどれも面白いと思ひます。模様も綺麗に描かせます。上下のこめには桐の實なご用ひます。

(6) 双六 包装紙の大きいものを臺紙とし、十六切の畫用紙十一枚位に動物づくし、乗物づくし、花づくしの繪等各自に工夫させて描かせ順序に貼り、上り、ふり出しを定めます。

(7) 福笑ひ・かるた かるたは一人一つづつは無理ですから共同製作にいたします。複雑なものでなく、極く簡單にいたします。

(8) お人形 銀杏がございましたらそれを頭にする三面白

いものが出來ます。つまり銀杏に揚子を通して頭三體にし、それに各自好きな繪を描いた千代紙の着物を着せまます。顔はカゼインの白で塗つた上に繪具で書かせまます。又紙を丸めて頭にしたものなごもよろしいと思ひます。

(9) 繪本、豆本 藁半紙半分大のものを四枚つづりまます。自作の畫、又はお伽ばなしの繪等を描かせ、出來たら簡單な言葉並べてもよいかと思ひまます。豆本は縦横三纏位を最大限度とし、繪だけ描きまます。表紙は藁半紙でも、又伊豫まさの端紙でも面白く思ひまます。

(10) 紙風船 藁半紙に繪なご描いたもの、又は包装紙を利用して折ります。繪の具を塗る三立派になります。

右は、ほんの一例でございますして、子供の年齢、時、所によつて差異のあるのは當然でございます。此の他に慰問袋は紙袋にて適當の大きさに作り、墨でキモンブクロを書いたものを用ひまます。

此の遊びは取扱ひ方によつてごの様に發展するものと思ひまます。例へば兵隊ごつこご聯關させる事によつて、その規模を大にする事も出來ませう。又實際の慰問袋の方に興味をむけてしまふごも出來ませう。凡てが出來上つた時、この子供達がごちらに強く牽かれます事でせうか、ごもかくも只今は兵隊さんにお送りする喜びを語り合ひながら、一生懸命、榮しく製作いたして居るのでございませう。

# 數あそびをして

附屬幼稚園 上 遠 文 子

切紙、ぬり絵、遊戯、唱歌等々の保育案の中に「數あそび」をつけ加へてみた私だつたがさて實行ミ、子供の前に出るミ如何にそれを取扱ふかミ迷ひました。「數」なんて國民學校での仕事。ミいふ概念が頭から去らず、しかしそれを面白く、幼稚園の遊びに入れたものは？ ミ頭をひねりました。別にこれミいつたすばらしい案も浮ばず初歩の初歩からミ、ミりかゝつてみました。勿論讀者諸姉の方がもつごよき方法をおもちでいらつしやいますでせう。唯、私の經驗記錄ミしてお読み下さい。

子供に近いものからミ、いつても澤山ありますが……。

(1)「今朝幼稚園へ来る途中兵隊さんが電車にのつてきました。一番はじめにのつたのは部隊長さんかしら。おひげをはやしたえらさうな兵隊さん。Aちゃん、その大將の兵隊さんになつて下さい。Bちゃん、Eちゃん、Cちゃん、Dちゃん、後の兵隊さんになつて下さい。Aちゃんは胸をはつてえら相に、後の兵隊さんは姿勢正しく、勇しく歩いてきました。

皆は大將になつたAちゃんがうらやまし相。

Hちゃん何人兵隊さんが竝んだかしら。」

(2)「玩具やさんに可愛らしいお人形を賣つてみました。日本人形もあれば西洋人形もゐるのよ。A子ちゃん、B子ちゃん、C子ちゃん……お人形さんよ。澤山お人形さんが竝んだこミ。G子ちゃんお人形さんが幾つ竝んだの。I子ちゃん買ひに来て下さい。「それでも好きなのをお買ひ下さい」「ちや、これを下さい」。F子ちゃんも買ひに来て下さい。「私はこのお人形下さい」「毎度ありがたうございます」おや／＼うれたので少し淋しくなりましたね。Y子ちゃん、あミにいくつ残りしましたか」。

(3)ヒコーキが飛んで來ました。Uちゃん、Wちゃん……ヒコーキになつて下さい。爆音、勇ましく兩翼はつて、飛び立つて來ました。Aちゃん、何臺さんで來ました？ ドドドドーン、ダダダーン 機關銃にWちゃんのヒコーキ、Zちゃんのヒコーキはおしくもおさされました。もう／＼ミ火をふいておちてゆきます。Cちゃん、何臺のこつたかしら？

あゝ、又飛んで來ました。Kちゃん、Lちゃんさんで

来て下さい。Bちゃん何臺になりました？Eちゃん、はじめから、全部で何臺でせう。」

兵隊さん、お人形さん、ヒコキにミ、なつたり、数へたりして数あそびの第一歩をふみ出した。この様に題材をあひる、つばめ、ひよこ、蝶々、さか種々取入れて、變へてみるミおもしろい。子供達は先生のお話につられて、あひるの動作や蝶々の動作なご巧に表現する。数あそび自由表現あそびミなり面白くする事が出来た。

四月、年長組になつた時、一人づゝわら半紙數枚をミごて造つたノートは、此頃では数あそびのよいお相手をしてくれる。書く事によつて今の觀念を次第に明瞭にさせ様ミ鉛筆をミらせた。

(1)「此頃八百やさんのお店に、又皆さんのお辨當箱にみられる栗。黒板に簡單に栗の繪をかく。し相でせう。皆は栗ごはん、栗きんミゆで栗なごおもひ出した様。皆の大好栗を十かいて下さい。」



火が消える様に水を一杯入れたバケツを五つかいて下さい。M子ちゃんは色鉛筆でバケツを水色にぬり水を入れて

る。」



おいん、きな

(3)



「何のお旗でせう。運動會の日の丸行進のお旗ね。皆さんの使つた方のお旗を三本、國民

學校でおつかひになつたのを二本かいて下さい。」

(4)「なしを十かいて、その半分の數だけりんごを書きま

せう。梨は



りんごは



(5)



「おいし相なお團子。Aちゃん何本ありますか？『五本。』皆ちよつミお目々つぶつてゐてごらんなきい。はいあけて。おやくたりなきい。あんまりおいし相だから、先生お隣の山の組の方に分けてあげませうごもつて、つゝんでしまつたの、先生何本つゝんでしまつたでせうねBちゃん。」等々。

この様にして大體「十」までの數を單位ミしてやつてみました。子供は、ちよつミ形を變へただけでも興味が新に沸くものです。唯、梨、りんご等を縦横に並べて數へるのでなく、圓を、三角をミ種々のものをつかひ型をつくりその數を數へさせるのも面白いでせう。



例へば



の圓の數。



の四角の數。

これを又實物で、積木、おはじき、ボール、木の葉などしてゆけばもつこ面白くも案出できる事だ。

又お相撲、輪投げ、毬投げ等してその點を圓なごでし最後に合計點を數へるのも數あそびの一つさいへませう。實際にみて數へるのもよいが樂しみつゝ耳にしつゝ遊ぶのも一つの方法を考へる。これは前に本誌上に及川先生がおのせになりました「十四の子猫」にヒントを得、歌の中に數を入れてみました。

あかいほつべたのおりんごさん

十のおかほをならべてる

おりんご下さいお客様

一番あかいほつべのおりんごさん

三つ袋に入れられた

残りの七つのおりんごさん

淋しさうに竝んでる

また／＼かわい／＼お客様

おいしいおりんご下さいな

二つのおりんごわたされた

のこりの五つのおりんごさん

かほをあわせて淋し相

ブン／＼荒鷲飛んで来た

六臺ならんで戰鬪機

おや／＼また／＼こんできた

四臺ならんでこんできた

十臺ならんだ飛行機が

つばさひろげていさましい

こんなのはたゞ例にすぎぬ拙作ですが可愛く綺麗な歌をつくり吟誦させるのも一つの遊びかさも考へて見ました。

この様に次第に複雑にしてゆけば子供達の考へも確實性がでてき考へる事に興味を持ちはじめでせう。そしてやがては數の觀念もはつきりし數が本當に自分のものになる時が来るでせう。徒に一から百までさか千までさか棒暗記させてもそれは子供に興味もなければ又自分のものにもなつてゐない。

かうして團體的にしなくても個人／＼でもお庭で遊ぶ時も何時でも大抵題材は觀察と共にころがつてゐる。その好機會を大いに利用し、子供達が愉快に、面白く數あそびが出来る様、種々考へるこゝが出来るでせう。

自分の經驗を記してみてこの二ヶ月かうして數あそびの保育案を満足させてきたさもおもふさおはつかしい次第で、もつこ／＼嗜好を變へたやりかたを動物に靜物にさり入れたいさおもつております。

各地保育  
會の活動

# 大分縣保育會の沿革及事業の概要

大分縣保育會幹事 天 門 成 章

## 一、大分縣下幼稚園打合せ會（大分縣保育會の前身）

高田町私立成蹊幼稚園園長難波十州氏は明治四十二年開園以來熱心に經營せしに、當時縣下十三園の連絡提携及共同研究の機關なきを最も遺憾とし、時恰も大正の初期、縣下に於ける鐵道の開通も相當の範圍に亙り尙大正の大典を迎へるこゝなりしかば、縣當局を初め各關係者を一々訪問し、地方保育事業の進展に關して諮り、更に大正大典の記念事業として單獨に該園に於て大正三年六月十三、十四の兩日大分縣下幼稚園打合せ會を開催せり。出席會員多數にして斯る會合は縣下に於ける嚆矢なりしかば關係者一同得る所多く、發起人難波十州氏に對して厚く感謝し、爾來毎年一回會合するこゝを申合せ大分枋築別府中津の各園順次開催し保育上の研究打合せをなし、その記録を各園に配布し保育の研究資料とせり。

## 二、大分縣保育會

大正の中期、世界大戰の影響によりて我國の保育事業も

著しく發展せり。從て大分縣下の斯業も漸次その數を増加して大正八年園數、一五會員五五三なれり。依て前記の打合せ會を大正九年一月大分縣保育會と改稱し、本會は縣下各幼稚園相互の氣脈を通じて保育上の研究をなし、兼て會員の親睦を計るを以て目的とせり。爾來左記の事業を行ひ以て本會の向上を計畫せり。殊に本會主催の下に大正十年五月三、四日第三回全國幼稚園關係者大會を大分市に於て開催のこゝろ全國は勿論臺灣、朝鮮より出席、頗る盛大にして、之を契機として本會の基礎も強固となり爾來縣當局も熱心に指導鞭撻せられて今日に至る。目下園數、公立二〇、私立一四、計三十四。

## 三、本會の事業

A、毎年度舉行の定期事業

イ、總會（各園に順次交替に開催し全會員出席す）

ロ、夏期講習會

ハ、保育研究會

ニ、全國コードモ愛護デー

ホ、園長會

B、本會の過去に行ひし特殊なる事業

イ、大正十年五月第三回全國幼稚園關係者大會

ロ、大正十五年五月我が國幼稚園開設五十年記念式

ハ、昭和九年六月本會創立二十週年記念式

ニ、昭和十二年五月中國、四國、九州保育聯盟總會

ホ、宇佐神宮に於ける皇軍武運長久祈願

ヘ、本會員の出征家族慰問

ト、昭和十五年六月本會創立二十五週年記念式

四、本會の役員

會長 大分縣學務部長 南 益次郎

副會長 大分幼稚園長 永野 道男

幹事 成蹊幼稚園長 天門 成章

” 南大分幼稚園長 高崎 吉人

” 中津南部幼稚園長 豊岡 道義

” 別府南幼稚園長 生野 明造

五、最近の本會の狀況

1、保姆の研究會

縣内の幼兒保育の改善を進展を計り且保姆の素質向上のため縣内を五區に分ち保姆は一ヶ年數回集合して研究會を開催せり

ロ、保育調査會

國民學校令實施に伴ひ保育上如何に考慮すべきか重大なる問題に就き研究調査のため特に調査委員を設け検討をなし十一月下旬綜合研究會を開催す

今や世界狀勢は我が國に對し日々に急迫を加へるも大東亞を建設するの秋次代の國民養成の任に當る者の責任重大なるを痛感するに共且保育の道に精進して皇恩に報ひ奉らんを期し會員一同互に提携して奮勵努力す

お詫び

御期待をいただきました講習號もいよ／＼今月を以つて終ります。茲に一つ深く御詫びを申し上げなければならぬのは、田代順之先生の「國民學校理數科の實際」が最後の本月號まで遂々その御玉稿が頂けなかつたといふことでございませう。

田代先生が、講習號のこの企てを心から喜んで下され御執筆を御快諾下さいました七月の下旬とは先生の御身邊は誠にへだたりを生じ九月からは東京市の茅場國民學校とその青年學校の校長として活躍をせられてお出でです。

國民學校と言ひ、青年學校と申せ、陸戦體制下の我が國教育行政に於て眞先に改革を斷行せられた一大劃期的な仕事でありまして、その新校長としての御多忙や察するに餘りありでございませう。

併し、豫告に添ひませんでしたこと誠に心苦しき次第でございますので、來る昭和十七年度新年號より「國民學校理數科の實際」を堀七藏先生に御執筆いただくことに致しました。何卒御期待下さいませ。

〔編輯保り〕

# 幼児の母



昭和十六年

十二月

## 母の反省

「自分はほんとうにいゝ母であらうか」  
母には時々、こうした反省が湧くと聞いてゐます。年の暮は、或は、その反省のまどまつた形で母に起る時であるかも知れません。

過ぎて仕舞つては早い一年ですが、その間、いろ／＼のことも、我子の上には、我子と共にゐる自分の上にあります。なかには、手を振つて掻き消したいやうな失敗もあつたかも知れません。どうしてあんな不注意をしたらうと、悔あつても及ばない思ひのすることもあるかも知れません。又、それ程でないとしても、あ

の時の小言、あの時のそぶり、仕打ち、返事の仕方、子に濟まなかつたと思ふやうなことは、或は必ずしも少なくないかも知れません。

子のよさは皆、子の力。子のわるさは皆、私の責任。これが母の心だと聞いたことがあります。それまで厳しく身を責められては、いくら母だつてたまらないと思ふのは他人の察して、母自身の反省は、そうしたものかも知れませんね。そうして、それこそが、母の有り難いところではありますまいか。拜み度くなる程貴いところではありますまいか。

但し、反省は母がひとり、そつとすることです。年の暮は、我子の正月を迎へるに、たゞもう楽しく忙しい中で。

## 幼稚園から

○この月は、幼稚園は、お正月の話で持ちきりです。もう幾つ寝るとお正月なのといふあの叫歌は、ほんとうに十二月の子どもの心を活々とあらはしたもので、幼稚園では、それが合唱なのですから賑かです。わたくし達も、いつしよにお正月が待ち遠しくなる位でございます。

○年に一度といふよりも、その年のお正月は一生に一度です。うんと楽しいやうに準備してあげて下さい。時局下ではありますが、いろ／＼のもの、配給は不充分かも知れませんが、だからこそ、お母さんの苦心によつて、うんといゝお正月をさせてあげて下さい。

○暮々も、暮の寒さを御注意。暮の忙しさに、つい／＼お子さんの方に手落ちがあつたりするものです。風をひかせたらお正月の楽しみも何もありません。健康に年を送りて健康に年を迎へて下さい。

# わが子を良い子に

十、てきぱきしてる子

倉橋 惣 三

子どもに限らず、大人でも、もの事がぐづぐづと煮え切らないのは、性質といひ、どこかに生活力の不足のあることです。何かしかけてぐづぐづ、一旦きめたこともぐづぐづ、ものゝ決定がつかず、実行力が鈍い。傍で見ても、いやになつて仕舞ふやうなのがあります。が、氣力缺乏が、神經衰弱かです。どつかん小僧がえらいといふ譯ではないですが、起きてるか寝てるか分らないやうなものも困つたものです。若の子はおつとりしてゐましてといふとお殿様のやうですが、ぼんやりしてゐてといふと、馬鹿殿様になります。忙しい時局下、そんなのは役に立ちません、平安の都大路で日なたばつこでもしてゐる役です。

實行がのろいのはまだいゝとして、そ

ういふ子に限つて、濟んだことをぐづぐづと愚痴つぽかつたり、思ひ切りが悪く、あきらめがつかず、いつまでもぐづぐづと胸の中をぬるゝさせてゐます。これは行動の上よりも一層よくないことで、そういふ子には進歩も發展も少ないことです。

こゝういふぐづぐづは性質といへば性質ですが、行動から性質の方へ及ぼす影響こそ、教育上大切な問題です。行動のぐづぐづは、忙しい用に間にあはないといふ位で濟むこともありませうが、精神がてきぱきしないことになる、一種のもうるう状態、性格的に心配なことです。そういふ精神状態は、なぜ心配かといひますと、現在にはつきりしないからです。即ち現在がいつも過去にからまれ、

## 手製 榮養 お八つ

厚生科學研究所  
國民榮養部 佐々木理喜子

都會地では御菓子切符制になつてまゐりますので、甘いお菓子が子供さん達の心をなぐさめますが、家庭でお八つを作つた習慣は捨てず、御子様の健康の爲に工夫していただくべき度く存じます。

【1】ピーナツ和へ

材料 干うどん二〇瓦、りんご五〇瓦、みかん五〇瓦、ピーナツ五、砂糖五瓦、以上で一五九カロリー  
作り方 干うどんを普通に茹で、五分位に切り水氣をよくきります。りんごは皮を取つて三分位の養目に、みかんは袋から實を取り出します。ピーナツを一寸と攪り砂糖を加へ、水で多少ゆるめまします。うどんと林檎をよく和へ、小皿に盛り、上にみかんのせませす。

【2】おさつつのロール

曇らされてゐるからです。そうしては次へ〜と現在をつかめなくなるのです。悪といふ譯でもありませんが、現在に生き得ないものは、しつかりした驕りにもならず、責任感などいふ大切なことも持てなくなりませう。身を立てることも出来ず、國のおつとめも出来ませぬ。

ところで、斯ういふ風の見える子どもは、早く直さんといけません。一種の癖でもあるのですから、日々々々それが治りにくくなりませう。幼稚園の子で、朝の出がけに起きかけて一とぐづり、御飯をたべかけて一とぐづり、靴をはきかけて一とぐづり、といった風のが往々にしてあります。面倒くさいから、うつちやつて置くではいけません。どうせそうさせなければならぬし、そうすることなので、すから、きつぱりと激励督促、ひつぱつてども實行させるのがいゝのです。今日はまだ大目に見るで、親が負けては、子をしてさなきだに負けてゐる自分といふものに又負けさせる事になります。あゝ

あの時あゝすればよかつた。姉ちゃんがあんなこと言つたからとか、そうした愚痴は、あまつたれ子などによくあります。が、一切相手にならぬことです。その時はそれが尤ものことであつても、過去に囚されてゐるといふことそのことは好ましくないことですから、相手にならないが、いゝのです。それが蓄積すると、人のしたことを、いつまでも〜うらんでゐるといつた風のことも起ります。極くよくないことです。新しい生活へ展開してゆくことを、せの位妨げられるか分りませぬ。

ところで、さて、子ども斯ういふ習癖は、その子一人の性質といふよりも、周囲の人の影響が大きいものです。ぐづ〜屋のお母さんが一番大きな影響を與へます。そういふお母さんと、親子でぐづ〜しあつてゐては、いつまでたつても切りのあるものでなく、ぐづ〜しないど物足りないなんてことになりませう。

材料 さつまいも八〇瓦、メリケン粉一〇瓦、赤味噌五瓦、砂糖五瓦、以上で一五三カロリー

作り方 さつまいもは、蒸して皮をとり、よく潰します。メリケン粉をまぜ、少し水でゆるめて、フライパンで両面を焼いて皮を作ります。此の中にお味噌を平に塗り、くる〜巻き、小口から長さ五分位に切ります。お味噌は、砂糖を加へ、水でゆるめ、火にかけて少し煉ります。柚の皮を卸して少々加へます。

### 【3】たから包み

材料 さつまいも七〇瓦、メリケン粉一〇瓦、人参一〇瓦、林檎四〇瓦、砂糖五瓦、以上で一五三カロリー

作り方 【2】の材料のおさつとメリケン粉をまぜて練り、薄くのばして皮を作り此の中に、人参と林檎を小さく切つて、甘く煮たものを包み、十五分位蒸します。



## 爐邊幼稚園

□炭も少ない此冬。わけても、戦地の兵隊さんの御苦勞を思つては、爐邊なぞと、いつもの冬らしい言葉は恐縮ですがそれでもまあ、冬はやつぱり火鉢のそばが楽しみです。

□そこではお母さんのお話も出来ませう。昔々ねも古めかしいが、お母さんのお話は親ゆづりの種子が多く、子どもの時、同じやうな爐邊で聞いたお話を思ひ出しては話し出すのでせう。その中には、相當如何がわしいのもあるかも知れませんし、教育的とかいひ出したら落選かも知れませんが、そこに、家庭話らしい一種の味が却つてあるともいへませう。第一、話手自身、子ども時に歸つてゐるのが何よりです。「お母さんが、お母さんのお母さんがお母さんにお聴きになつたといつてよく聴かせて下さつたお話を上げてませうか。」といつた具合で、聊か出典がやゝこしいのですが、そ

れこそほんとうに昔話です。

□爐邊では、いろ／＼のいゝ香がして來ます。芋の匂、栗の匂、餅の匂。いゝものですね。普通の幼稚園では、どうも、かうした、なつかしい味も出にくく、香もたゞよびにくいものです。それこそ、家庭幼稚園の特色といへませう。蜜柑なんかも灰にくべて、熱くなつた皮をふう／＼いひながらむいてたべるのも、甘くつてあつたかいいものです、それが何んで幼稚園がつて。そんなことおつしやらなくても、楽しければ、親しみ深ければ、それでいゝじやありませんか、尙ほお尋ねがあれば、立派な觀察ではありませんかとお答へしませう。

□爐邊では、いろ／＼の遊びが行はれます。言葉遊びでは、なぞ／＼、しりとりと、考へもの、あてもの、その他、その家に傳はり、その地方に傳はる遊びが、賑かに行はれます。兄さんが學校から歸省してゐるといふやうな時には、ちか／＼さんまわそじやないかと、爐をめぐつて大笑ひが爆發することもありませう。そ

れは皆、相當注意をはたらかせ、頭をはたらかせ、頓智をはたらかせて、立派な教育効果をもつてゐることです。

□爐邊幼稚園の一大景物は、お客さんです。隣のおばさんが飛び入りのことがあります。親類のおぢさんが幾晩か座り込むことがあります。そういふ時、おとなの話には分らないこともあり、ねむくなることもありませう。しかしまた、半分分つて半分分らないやうな、おとなの話をだまつて聽いてゐるのも面白いことです。人の話をだまつて聽くといふことには、一種の教育もあることです。が、それよりも、おとな同志の親しい會話を、その意味よりは、人間劇として、聽いてゐる味は、いふにいいないものです。人間といふものは、親しいものであり、作法のあるものであり、それに見えてゐるだけでも、なかく／＼座を立てないものです。

□爐邊幼稚園は、こんなに楽しく、味もあるのですが、たゞ一つの注意は、夜ふかしにならぬことです。火はあかあか、お湯はちん／＼、おとなの話は盡きない。そこを割愛して寝ないといすがねむい。

誌  
上  
保  
育  
講  
習

今夏中止の保育講習會を、その豫告通りの内容をもつて、「幼児の教育」九、十、十一、十二月號に連載して誌上講習とし、八百餘に上る聽講御申込みの御熱意に酬ゆることゝしました。

諸先生には御繁忙の中にも拘はらず御快諾下さいましたことを茲に改めて厚く御禮申し上げます。(編輯部)

誌上保育講習目次

國民學校と幼稚園保育の實際	倉橋 惣三
國民學校國民科指導の精神	竹下 直之
國民學校藝能科音樂に就いて	小松 耕輔
國民學校理數科の實際	田代 順之
幼稚園遊戯	戸倉 ハル
幼稚園手技	及川 ふみ

# 國民學校と幼稚園保育の實際 (四)

倉 橋 惣 三

## 第五

國民學校令施行規則には、「家庭及社會トノ聯絡ヲ緊密ニシ兒童ノ教育ヲ全カラシムルニカムベシ」といふ一項がある。これは、國民學校の新らしい教育方針として、最も注目すべきことの一つである。従來に於ても、學校、家庭、社會の聯絡をいはずでもなかつたけれども、それは學校教育として、そう重要な問題とは考へられてゐなかつた。學校の超越性といふか、孤高性までいふか、自分ひきりで教育してゆくといふ態度のみでなく、自分ばかりが教育を真にするもの、更に進んでは、ほかのものは皆非教育的ださへ見なすやうな風も随分あつたのである。それに對して、この一項は大いなる警告を與へてゐるものといへる。而して、これは幼稚園にまつても同一であり、或はそれ以上である。

### 一 家庭との聯絡

その中でも先づ第一に考ふべきは、家庭との聯絡であ

る。これも従來は、家庭をして學校に聯絡せしめるといふ方が主になつてゐた風があり、それこそ逆である。勿論、家庭にその任務あるは言ふまでもないことで、向後もその點を大に進めなければならぬ。しかし、こゝで言つてあることは、學校の方で家庭に聯絡をさることである。幼稚園にしても同様である。

こゝろで、幼稚園の保育が家庭に聯絡するといふことは、二つの意味がある。(い)一般的に幼稚園保育といふものが幼児を中心として家庭と聯絡し協力しなければならぬといふこと、及び(ろ)個々の場合として、その子の家庭の實情に即しなければならぬといふこと、この二つである。

#### (い)家庭との協力的聯絡

この方は大體に於て、今迄もいつも考へられてゐる。まだ不充分である場合も多いが幼児を教育するに、幼稚園と家庭とが一つの方針をとり、互に力を協せて進むといふことの有效必須なるは、説明も要しない位である。保育を幼児の個性に即せしめる爲に、保姆は幼児の個性をよく知ら

なくてはならぬが、それはたゞ心理學的に調べるさか、幼稚園だけで見るさかいふのでは、ほんまうのさころに徹らない。さうしても、平生の家庭生活に於けるあらはれをも、さして知らなければならぬ。その爲には、家庭の周密な聯絡なくしては出来ない。それから又、躰けさいふやうなことは、幼稚園だけでは出来得ない。家庭でも同じ方針で行はなければならぬし、寧ろ、家庭の方針を参照しなければならぬさもいへやう。そして、雙方一致の協力なくしては出来ないのである。

このために、幼稚園に家庭が絶えず意志のそつうをかり、常に親しく話しあひ、打ち合ひ、打ち解けてゆくことが必要である。保護者會も必要である。保母に母の懇談も一層有効である。さころが、これらのことが案外によく行なはれてゐない。形では行なはれてゐても、ほんまうに、意志のそつうが出来てゐるかさうか。甚だ心もさないことが多し。なぜさうであらうか。一つには、家庭の方に責がある。我子を頼んで置きながら、何んさいふ冷淡か驚かれるさもある。まるで非人情のやうなものあらう。また、それでよいさ、さういふものさ思つてゐる風もないではない。しかし、此の方は、こゝでは多くは言はないさして、一つには幼稚園の方にも責のあるさ言つて置かなければならない。甚だぶしつけに申上げにくいさ

は御座りまするけれさも、最も大切なさだから敢て苦言をいふのである。第一に、保母に、家庭に協力しようさするさころが足りない。子さもを家庭から連れ出して來て、幼稚園では幼稚園でのさをするさいふ風で、その子に家庭のあるさ、家庭の子ださいふさを忘れてゐる風である。これではまるでお話にならない。が、先生さいふものに珍らしくない癖でもある。第二に、それを思はないではないが、家庭の聯絡の腕のない場合である。極く若い保母さんが、自分のお母さんのやうな保護者を相手にして、これが仲々むづかしいさであるのは免れないが、なにも年巧者のやうな態度でしなければならぬさもあるまい。また、そんなさをしては、却つて眞實が出ないさいふものである。眞實、實に此の眞實があふれ出さへすればいさので、うら若いはたちさこゝの先生が、さしまの奥さんにもいふにしても、その子に對する教育上の眞實は變りないし、又さういふ若い保母さんこそ、純な眞實に充ちてゐる筈である。それでぶつかつてゆけばいさ。子さもが手に負へないなら、若い目に涙をためていふのもいさじやないか。ねえさうしませうに相談をしかけてもいさじやないか。だが、若い保母さんは、さうも親達に話をするのさへ餘り好きでなかつたりしはせぬか。そんなさで、聯絡も何もあつたものではない。第三に、心は眞實で充ちてゐて

も、さうも教育的に註文し過ぎて、親達を、たゞハイ、ハイばかり言はせてそれでお仕舞ひさいふやうなこどももある。親は我子の缺點や、悪性癖なきを指摘せられれば、一儀に及ばず閉口頓首する。恐縮もする。が、それでは聯絡が却つてむづかしい。親の身にもなつて見て、同情さいふか、察しさいふか、それがなくては打ち解けられない。その意味で、保姆は親心を解してゐなければならぬ。そうでないこ、親と先生とは、離れるばかりである。

殊に、此の協力的聯絡で必要なこは、その聯絡が、時によつては、極く徹底的に行はれなければならぬこである。たゞへば、多少極端の場合であるが、こどもに何か特別な悪癖でもあらはれたさいふ時、直接にこどもを咎めればかりでは矯正出来ない。家庭との協力で、その悪癖を周密に見守る外はないこがある。さういふ時、親の方は恥しかつたり、又は腹立たしかつたり、徹底を缺き易いものだが、保姆さんは、相當のつこみ方を必要とするこがある。そんな時、一層眞實が力であるこは言ふまでもない。

#### (ろ)家庭の實情に即して

家庭に聯絡するこは、もう一つの方面は一人々々の子を、その家庭の實情をよく知つて、それに合致、適合させて保育してゆくこである。前の(い)の聯絡が、多少狹義

の教育的聯絡であるすれば、此の方は生活的聯絡といつていゝものかも知れない。そして、これこそ實に、幼稚園にまつて先づ大切この上ないこである。

その、家庭の實情さいふものに、いろいろの方面がある。(一)家の家族情況、(二)家の經濟的情況、(三)家の職業、(四)家の家風、(五)家の宗教、さいつた恒常的なものを始めとし、その時々に変る臨時的のものとして、家族の健康さか、家庭の特別な繁忙さか、更に理下の時局に於ては、家族親戚の出征關係なき、格別によく知つてゐなければならぬこである。

是等の一々に就て詳細にいふ時間がないが、この幼稚園でもする、幼兒家庭調査は、たゞ形式的にするだけでなく、又、統計的資料にするだけでなく、一人々々のその報告に就きよく記憶してゐなければならぬ。保姆さんの中には、その子の心理はよく知つてゐても、家庭の實情を少しも知らないのがある。呑氣の至りである。そんなこで、その子にびつたりあつた保育が出来るものでないし、甚しきに至つては、頓珍漢な扱ひをして、その子に、さんだ妙な思ひをさせるこも稀でないであらう。

わけても、調査表で報告されたこが、後に變動のあるこをも注意してゐなければならぬ。又、この家でも、臨時々々にいろいろの事が起つてゐるこを知らなければ



ならぬ。母親が久しく病院にあるさいふやうな時に、それを知らずには、到らざるの甚しきである。殊に、この節は、家の職業なきにも、種々の變動がある。それを知らずには、ほんまうに思ひやりの足りないことを、ついにしたりせぬとも限らぬ。注意すべきであると共に、それに適合するやうな保育をするに細心に力むべきでもある。

## 二 社會との聯絡

社會との聯絡は、その子を中心としてさいふよりは、環境的一般としての問題である。幼児は未だ直接に社會との交撓をもたぬことが常であるが、それにしても、社會の中に生活してゐる以上、それとの關係をもたずにはゐない。お正月から初めて、年中行事のそれごとくをまじして、その他、國の出來事、地方の出來事、四季の移りかわりにつれる社會的移りかわり、皆、幼児の關心に觸れないものはない。しかも従來の學校や幼稚園、往々にして是等に對して超然としてゐた。それでは教育が幼児の全生活から遊離する。それを生活へ即させようとするのである。

幼稚園に於ては、實は以前から此の方針をまつてゐる。保育案を立てるに、季節に社會行事に準據してゆかうとするのは、既に一般の通則になつてゐる。今更のこゝでもないやうであるが、それが未だ徹底しないこゝも稀でない

いかも知れない。

それから、それに關聯しての實際として、幼稚園の園外延長も亦大にすゝめていゝことである。之亦、以前から唱道してゐることであるが、所謂園外保育が、主として保健の方面のことゝせられてゐるのに對して、もつと廣く、社會興味の攝取の方へ向けられてゆくことも有效であらう。勿論、その實行に就ては充分細心の研究を要し、みだりに多勢の幼児を連れ出すさいふことは考へものであるが、工夫の途はあることであらう。

X X X

以上、國民學校の實施に伴ふて、幼稚園がその實際に於て意を用ゐなければならぬ點を拾ひ上げて述べた。而して、問題は素より之れで盡きない。幼稚園の諸君はよくよく國民學校令とその施行規則を熟讀し、又その教科書を精讀して、その前段階の教育方針を誤らぬやうにしなればならないであらう。

# 國民科指導の精神 (四)

文部省圖書監修官 竹 下 直 之

## 九

『ヨミカタ』の卷一を開いてごらんになります。最初は文字なしで、校庭で子どもたちがラジオ体操をしてゐる繪に始まります。校庭には櫻の花が爛漫と咲いてゐます。ここで先生は入學のよろこびさか、春の樂しささか、花の美しさ、元氣でほがらかなラジオ体操について話をさせ、

最後に體操の號令「一二三四五六七八」に導いて、特に「一二三四」を焦點として發音の訓練をするのであります。「イチ」の「イ」を捕へて、「イ」をいふ母音訓練をするわけです。次の頁にある校庭の遊戯の繪でも同様であつて、樂しい行進の「ウレシイナ」の「ウ」をまつて母音訓練をする。「オモシロイナ」、「ウレシイナ」、「エライナ」をいふ歡聲的な叫び聲、これを大きく、正しく、ゆつくりと發音させるのであります。

かうして導いてから始めて、文字に入るのであります。最初の「アカイ、アカイ、アカイ、アサヒ、アサヒ」では、文字を教

へるほかにまた、母音「ア」の基礎練習をするごにも、前課の「エライナ」を關聯して重母音「アイ」を含む「カイ」の練習をさせるのであります。「ヒ」を地方によつて「フ」を混同したり、或は「シ」「フィ」を訛るごころがありますが、これらを訓練するごによつて、次第に改めさせて行くごになります。

言語訓練、すなはち一の躰が、如何に兒童自身のごごに即して指導されるかは、

「コマイヌサン  
ア

「コマイヌサン  
ウン」

ごいふやうなこの教材からも、想像せられ得る處であります。この教材は、子どもがお宮におまゐりして、社頭の狗犬をみて「コマイヌサン」を呼びかけた、ご考へてごらんなさい。するご口を開いてゐる方の狗犬は、「ア」を答へ

口を開けてゐる方の狗犬は「ウン」に答へるではありません。子ごもたちは、さう想像し得るのであります。この兒童心理に即して「ア」「ウン」をくり上げてゐる。「ヒノマルノハタ」にしても、「ヘイタイサン」にしても、「アヒル」にしても、言語訓練は發音と文字とつねに組んで進むのであります。さうして發音、文字、ないし語句語法といふ言語訓練から、歩み入つた「ヨミカタ」の錬成は、次第に躰の部面に進みます。例へば、二十二頁に見える

「オハヤウゴザイマス。

イタダキマス。

イツテマキリマス。」

に始まつて、六十頁の「メダカサン、メダカサン」に至るまで、この邊は「ヨイコドモ」の教材としても取扱はれ得るやうな、躰のこまばが豊富に準備されてゐます。

「ホンダイサムサン。ハイ。

ワタナベマサチサン。ハイ。

スズキハナコサン。ハイ。

ハヤシハルエサン。ハイ。」

こいふ教材は、見方を變へますと、禮法指導となるやうな、元氣のよい返事の訓練でもあります。かかるものが、すなはちこまばの躰に關する教材として提出されてゐる。また、

「センセイ、サヤウナラ

オカアサン、タダイマ」

こいふのは、子ごもが歸宅するまでの躰であつて、歸宅後のイサムサンが使ひに行くところは、孝行の實踐でありませうし、また幼い子ごもにまつての禮法こいふものが自然に指導されるこまになるのであります。

更に二十一課の「デンワソビ、オキヤクソビ」のころでは、この兒童の遊戲生活を通して、興味を覚えさせながら、挨拶や躰のこまばを兒童の身につけさせようとするところがある。すなはち無邪氣に電話遊びをしたり、お客遊びをしたりしてゐるうちに、電話特有の名乗り合がわかつたり、自然に敬語が使へるやうになつたり、返事の仕方がわかつたり、訪問の際のお互の挨拶ができるやうになつたりするのであります。

このやうに「ヨイコドモ」の緊密な連絡を以てして、しつけ、またこまばの訓練をして行く。醇正な國語について指導するのであります。子ごもが自分の生活のなから、だんだん大人の世界へ近づいて成長するすがたが、「ヨミカタ」のなかに看取せられるではありません。その進み方は飽くまで、實踐的な躰であります。文字を指導し、言葉を教へ、發表力や理會力を高めてゆく教育、すべてが又しつけるこまであります。從來ただ文字を教へるだけの科目で

ある三考へられがちだつた「ヨミカタ」教育は、かくして極めてひろく各科目、各教科との關聯のうちに展開せられたのであります。

## 十

特に「ヨミカタ」教材について注意しなければならないのは、ここであらういろいろの事項を決して理念的に注入するのではなくして、さういふまでも國語の力を通じて感動的に與へよう工夫してあることであります。すなはち、國語の教材はその表現を離れて成立するものではなく、教材の精神は表現の進展と相俟つて次第に擴充し、浸潤するやうになるのであります。かやうにして『ヨミカタ』の初等科第一、二學年用四卷を通じて、教材のすべてが殆ど網の目の如く、緊密に關聯し結びあつてをります。

先づ「アカイアサヒ」、「ヒノマルノハタ」(卷一)から、「日本ノシルシ」(卷二)、「富士の山」(卷四)へは、國土の誇りが漸層致します。さうしてこれらが「二重橋」(卷三)、「菊の花」(金しくんしやう)(卷四)を中核として、國體の尊嚴を具象化するのであります。

これらと結んで「ハトコイ」を呼び、「コマイヌサン」を呼びかけ、「オミヤノ石ダン」を登り、「オハカサウヂ」を(以上卷二)、「お祭」に参拜し(卷三)、また「神だな」(卷四)を飾る一聯の教材が、そのままに敬神崇祖の精神を目ざめ

させるものになりますのであります。

さうして、祖父の父を見る「ユメ」や、「机こしかけ」の話や(以上卷二)、祖父の語る「川」の話(卷三)が、兒童の生活を過去の傳統に結んで、「シタキリスズメ」や「モモトラウ」や(以上卷一)、「サルトカニ」花サカヂヂイ(以上卷二)の童話から、「うらしま太郎」(卷三)、「早鳥」(羽衣)(以上卷二)の傳説へは歩を進めて、やがて「國引き」(卷三)、「白兔」(卷四)といふやうな神話へつながりを有つて來て、歴史的色彩を次第に濃厚にしてゐます。

併し、第二學年までには、肇國神話は未だ現はれません。兒童心身の發達を十分に見極めることによつて、國體に對する敬虔な心情を啓培しようとする神話の體系は、これを初等科修身とむすび合ふことによつて、初等科國語が、第三學年の前半期にやうやく提出するのであります。明春みなさんの御覽になれる第三學年用の教科用圖書「初等科修身」(初等科國語)を併せて、おひもききになれば、神話といふものをさんな形で、兒童教育に、ないしは幼兒の教育に於て、取扱ふべきかは御分りになることと存じます。

歴史解釋と積極的につながるのではなくして、以上に指摘しましたやうな「國引き」が、或は「白兔」(いふやうなものだけが、低學年の方にまはしてあることからも、簡単に取扱はれ得ないものであることは、御想像になれるのであ

りませう。

とにかく、かかるものの中に日本の國土の美しさをたへて、そこから文學を育てることも、また自然教材を通して地理を理科を育てようとする教材選擇が行はれたのであります。さうして子どもたちは、「ユフヤケコヤケ」を歌ひ、「カクレンボスルモノ」を叫び、「ココハドコノホソミチダ」に遊び暮し(以上卷一)、「ねんねんころりよ」(卷二)の歌に夜の夢を結ぶ古謠の魅力に、すすすす育まれるのであります。

私共の尊い國がら、美しい國土の四面はまた海であります。「イケニフネ」を浮かべ、「日本ハウミノクニ」をたへ(以上卷二)、「山ノ上」はるかに海を眺め(卷二)、遂に「海」へ来て、その躍動するすばらしいすがたに驚喜致します(卷三)。この海を超えて「ラジオノコトバ」が世界にひろがり、「西ハタヤケ」の滿洲をしのび(以上卷二)、滿洲の冬」を眺め、「金の牛」の物語を聞き、「支那の子さも」(以上卷四)を読んで東西新秩序建設のすがたをまざまざ見るのであります。

そこで子どもたちは「ラジオ体操」をし、「校庭の遊戯」をし、「ヘイタイサン」の畫をかき、「キチツケ」の號令で兵隊ごっこをし(以上卷一)、「兵タイゴツコ」の劇を演じ(卷二)、「ヒカウキ」(卷一)や「らくかさん」(卷三)に夢中になり、あ

つばれ「軍かん」通になり(卷三)、「こつあほうこつう日」に感激し(卷三)、「海軍のいさん」をよろこび迎へ、「にいさん」の入營を送り、「病院の兵たいさん」を見舞つて(以上卷四)、やがては自分も大君の御楯立ち、科擧國防の戰士となり、銃後のまもりをかたくする心構をつくりあげつつあるのであります。

かやうに見て参りますと、「ヨミカタ」教材はそのまま一つ一つが、それぞれの意義と感動を有するだけでなく、それらのものが相即展開することによつて、いはゆる高度國防國家體系をさながらに具現し、意義と感動をいよいよ深からしめるのであります。このことは『ヨイコドモ』に於て積極的に求めてをります國民的世界觀の確立徹底を圖るさいふごころを相呼應して、國民科的性格のうちにむしろ一體のさなつてゐるさいふごころができます。隨つて指導に當つては、この點を十分にわきまへて、徒に一教材にさごころもることによつて抽象的な概念を抽入するのではなく、つねに全般の教材を見通すことによつて、表現の具體に即し、連絡の絲をたぎりつつ、取扱ふごころが要求されるのであります。

もごもごさいふものは、自由奔放な空想性を有するものであります。時には、極めて非合理的なものであつて、或る意味ではそれが一種のうそになつたり、また誤り

になつたりするこゝがありますが、しかし子ぎもの示す空想性が、一方で創造、發明の基礎たり得るこゝを、見逃してはなりません。随つて將來日本の動向に於て、創造力の豊かな、優秀な國民をつくるこゝが、留意さるべきである限り、幼い時に於て、たくましい想像力、奔放な空想力をも十分に伸ばしてやるこゝが、大切になるのであります。理窟にはしつた、さきに申しました抽象的概念ではなく、また知識の注入ではなくして、空想性も合理性との統一から新文化をつくりあげて行かなければならぬ。『ヨミカタ』のなかに在る教材をこの角度から考へて見るこゝも、重要なこゝがあらであります。「ワタシガアルク。オツキサマガアルク。」こゝいふやうな教材を、大人の立場に於て、簡單に否定するこゝもなく、汽車や電車に乗つたとき、おうちや電信柱がうしろに走つて行くでせう。こゝいふやうなこゝろから、指導のいさぐちを見つけてごらん下さい。子ぎもの發する「なぜ」の解決を大人化してではなく、兒童に即して求めて行かなければならない。低學年教育では、ひいてはまた幼兒の教育に於ては、このこゝの留意こそ大切なものであります。その意味で、一二學年では童話やお伽噺が多い。しかも三年以上、特に四年以上では組織的に合理的な創造精神に燃えしめるやうな教材が多くなつて、空想も現實との未分化なものが、影をひそめるこゝになる

のであります。

序に申上げるこゝ、今度の國語の教科書では、

一、新出讀替の文字を兒童用書の欄外に掲げてありません。

二、また、ひらがな初歩の練習を「コトバのオケイコ」こゝいふ『ヨミカタ』に相即して、子ぎもの國語活動をなさしめるため編纂されたものへ譲つてあります。

三、さうして漢字の提出仕方が、子ぎもの器械的記憶力の旺盛な時期に即應させるために、低學年で從來よりも、かなり増加してゐます。

これらの點について詳細なこゝがらは、『ヨイコドモ』『ヨミカタ』いづれも、それぞれつくられてある「教師用書」を以て、十分に御検討願ひます。また申し足りないこゝを補ふ意味では、編纂趣旨について解説したものが、日本放送出版協會から「文部省國民學校教科書編纂趣旨解説」こゝいふ名前で、公刊されてをりますから、興味を多く持たれる方は、その方でお拾ひ下さるやうに希望致します。

## 十一

最後に、國民科のなかには高學年で、國史も地理も指導されるこゝになつてをります。併し、高學年のものについては、幼兒の教育に従事される方々は、恐らく直接的には興味が薄いこゝも考へますので、簡單に申添へるこゝに

致しませう。

國民科國史の目的は我が國の歴史の概要を兒童に會得させ、皇國の歴史的使命を自覺させようとするところに、在るのであります。國史は決して史實について記憶するといふだけであつてはなりません。確かに編纂せられる國史の教科書のなかには、肇國のいにしへから現代に至るまでのさまざま史實が誌されることでありませう。併し、これをまる暗記しても、それは未だ國史を學んだといふことにはならないのであります。むしろその史實の根柢にひそんである、窮まりなく展開せられ行く皇國の大生命を感得して、皇國臣民としての自覺を深めて、更に世界に於ての我が歴史的使命を遂行するやう、奮ひ立たせるのが、國史指導の窮極の任務になる、といふわけであります。

子どもたちは少しく大きくなつて参りますと、英雄物語とか戦争の話とかが好きになります。例へば、攝政關白になつて、自由自在な權力をふるつた人物について述べますと、その威勢に憧れて、目をかがやかせるであります。併しながら、注意すべきは、如何なる忠良賢哲の事蹟に致しまして、それが飽くまで國民精神の具體的に現はれたものとして理會させるのでなければ、むしろ有害でさへあるのであります。天皇陛下に對し奉つての隨順奉仕にいくらかでも缺けるところがあつたならば、日本國民として

は少しも畏敬するに足りないといふことを歴史的事實を通して知らせ、皇國臣民として、日本の子どもとして隨ふべき唯一の大道を力づくつかませることが肝腎であります。國史指導が世俗的な講談なき根本に於て相違するわけが、ここから考へられるのであります。

たゞへ武家政治その他の政治體制の變遷について説くことがあるにしましても、いつの世にも一貫して皇威が輝き、國體の本義に於て微動することのなかつた點を十分に明らかにせなければ相成らないのであります。各時代の文化に觸れましても、日本固有の文化の上にたえず外來文化を攝取し、またそれを醇化しつつ、連綿として展開し來つたありさまについて示し、生竊に生々發展する皇國の道を解明すべきであります。また外國との關係について申述べるときにも、我が海外發展の久しき點を説いて、皇國の道に基づく主體的態度の上に生まれる對外精神の所在を示して、國本に培ひ國運隆昌の機運の一日にしてならざることを感得せしめなければならぬのであります。

かくして國史は客觀的に見れば、皇國の大生命の發展史であります。また主體的に探りあげますれば、これ即ち萬民輔翼、臣道實踐のまことを致し來つた跡方でありませう。國史教育はそれ故に、この「臣民の道」を以てしてすべてをつらぬくことの自覺を促すことこそ、大眼目なるのであ

ります。さうしてそれを子ぎもの現實の生活さむむすさつ  
け、臣道實踐の歴史のなかに彼等自身をも現在のこのま  
して完徹せしめなければならぬ。現實さ結ばない國史指  
導はおよそ無意味であります。

母の背で、また夜の伽に、をさなごころのうち耳にし  
得た傳説、神話、英雄物語さいふものが、無垢の童心に培  
つて、やがて歴史にあこがれるこころにしむけるものである  
こころをよく考へて、幼兒の時代から啓導して行かなければ  
なりません。さきに國民科國語の解説のなかに申しました  
やうに、「オハカサウヂ」さいふやうな家中そろつて故郷の  
お墓参りするこころが、實はそのまゝに國史指導さなつてゐ  
るこころを見落してはならないのであります。國民學校の  
四年では、次に説く地理さ結んで、特に「郷土の觀察」の時  
間を設けて、郷土の山河のほか、なほ史蹟、社寺、偉人  
の生ひ立ちなごに觸れしめるのであります。それ以前に  
於て『ヨイコドモ』『ヨミカタ』いづれも、國民の母胎たり得  
るやうな教材を提出してゐるこころについて、幼兒教育如何  
にすべきかを、考察して頂きたいさ存じます。

皇國の史觀に立つて國民科國史の教科書は編纂されるの  
でありますから、これまで史的敘述に多く見受けられたや  
うな、個人中心の英雄物語的のものは、國史教科書からは  
姿を消すかも知れません。また鎌倉時代さ徳川時代さか

いふやうな時代區分も、すべて武家政治さいふこころを中心  
さなしたこころに胚胎してゐるのでありますから、それら  
についても再檢討せられるこころになりませう。國史教材が  
如何なる形で史實の再編成せられるかは、ただいまの所申  
しあげかねます。併し、國民的世界觀の確立、國民的自覺  
の喚起さいふ根本から歴史を見直すやう心がけて頂きたい  
さいふこころだけ、特にくりかへして置きます。

國民科地理に於けるさ同様であつて、ただ自然地理さか  
人文地理さかなきを以てして、いはゆる地理學の知識を授  
けるのが、主目的では斷じてないのであります。却つて我  
が國土國勢ならびに諸外國の情勢についての大要を會得せ  
しめ、國土愛護の精神に培ひ、東亞および世界における皇  
國の使命を自覺させるこころが大眼目さなつてゐるのであり  
ます。

國史、地理をこれまで暗記物さして輕視する傾向があり  
ましたが、國民學校では、修身、國語さともに、國民的自  
覺の喚起さいふこころを直接の指導事項さなす國民科さいふ  
教科に包含されてゐるこころから、新しい性格を見出さなけ  
ればなりません。さきに一寸申しあげましたやうに、この  
二科目は四年のさきに「郷土の觀察」さして登場するのであ  
りますが、それも全く同一趣旨に出でたものであるこころを、  
お考へ願ひたいのであります。



我が國土は東海に浮かぶ大小一萬六千の群島であつて、

北緯一度から五十度に亘つて五萬一千軒、寒溫熱の三帶にまたがつた廣い地域のものであります。しかも燦然たる國史は神様のお生みになつたこの國土の上に展開され、一億の國民はこの國土に於て生々發展して参りました。なほ未來永劫に亘つて、國史の展開を期するためには、よくこの國土についてわきまへ、この國土について知り、この國土を愛護して、この國土のうちに醗酵した國民精神をおのがものさしなればならないのであります。私共はよくいはれるやうに「自然を征服する」さういふのではなく、却つて「自然さきにも生きる」さういふ態度を以てして昭和の聖代に至つたのであります。自然を愛し、自然さ一體さなつて生々發展する。この角度のものこそ、まさに我が國土を深く愛養し、國土を永劫に亘つてまもり續け、東亞および世界にむかつて、敢然さ皇國の道義的使命を遂行する根據さなるものであります。國民科地理の指導に在つては、その故に知識を現實に生かささころから始めて、「郷土の觀察」を理數科に於ける「自然の觀察」に引續くものさして提出し、子どもを生活を豊富ならしめることに資しようさしてをります。ここでも要は實踐であり、實地の指導であります。實踐行爲さいふことが大本になつて、始めて國體の精華を發揮するさいふことも、可能的になるからであります。

## 十二、結び

我國はいまや國を擧げて、神武天皇が皇祖の神意を繼承し給うて國の基を定め給うたをり、昭示し給へる「八紘爲宇」の大理想にむかつて邁進しつゝあるのであります。ここで申します八紘さは、今日のこさばでいへば世界のこさであります。既に滿洲事變に際しては、既に滿洲國の建國を見、日滿一徳の盟をなすこさによつて、東亞の一角から世界新秩序の建設さ呼ばれる世界史創造の第一歩を印するこさのできたのであります。このものこそ、ほかならぬ大義を八紘に顯揚する皇國世界觀のあらはれであつた、さなし得るであります。

現實の事態に即して、私共はかやうなものを認識するのであります。實に時さ處さを得て、それぞれに生々發展せしめる皇國の歩みこそ、そのままに過去さ未來さをつらぬく不易の國民的世界觀を結果するものであるこさにも、またさうした世界觀の具現するこさ、すなはち政治の理念さなり、また教育の理念さなるのでなければなりません。私共は皇國の世界觀に、いふこさころの皇國の道に和合するものさして個々の人生を意義づけるこさ、日本人さしての人生觀ないしは人間觀を所有するのであります。しかもかかる見方、考へ方のほかには、我々日本人のさるべきものは、なにも存在し得ないのであります。

國民教育といふことについて考へを及ぼす場合に、さうしたものは異つて、人間一般ないしは世界一般を立て、そこから日本國民ないしは日本國家を區別して考へるやうな考へ方を改むべきことは、申しあげるまでもありますまい。私共は聖訓を無視し、また二千六百有餘年の歴史的現實から眼を閉ぢるやうなことがあつてはならない。特に東亞永遠の安定を御軫念遊ばす御詔勅、ならびに炳として輝く國體を無視せんとする方向へ走るべきが、あつてはならないのであります。皇國日本を抹殺するやうな學理を立てて、そこから國民精神を涵養するべきか、國民的自覺を喚起するべきかいつても、それは凡そ無意味であります。國民教育に於ける焦點は文化的教養を與へることよりも、より多く國民的鍊成をするべきところに在り、また個性的開發をするべきよりも、更に根本的に國體にもとづき皇國の道に則りての修練をするべきに處に在るのであります。

國民學校教育に於ける國民科といふ教科こそは、この確乎不動の方向にむかつて、極めて大切な礎石を置かうとするものであります。その根本的意義については、私は教學局から出ました『教學新書』中の『國民學校精神』といふ小冊子で詳述してをりますから、ここでは控へて、大體以上のやうな解説を以て、責をふさぐことにさせて頂きたいと存じます。

## 來年の「幼兒の教育」

本誌は、時局下幼兒教育の重要性の増大に基き、内容を一層充實して、斯界の爲にお役に立ちたいものと、平生から念願してゐますが、特に來年號から、記事の刷新を圖り、諸賢の愛讀に報いたいと企て、居ます。

先づ、立教大學教授、愛育研究所員牛島義三氏の「幼兒の心理學」と東京女子高等師範學校教授石井庄司氏の「萬葉に於て日本の感情を見る」を毎號連載、堀七藏氏の國民學校理科の實際を續載、之れに月々の保育實際に關する指導的記事として、倉橋主幹、及川主任始め編輯部總動員で、それらの擔當を執筆し、保育講習録の態を以て、保姆諸君必須のものたるを期して居ます。是等特別記事の外に、各方面の利益と興味とを、諸家の執筆に乞ふは素よりでありまして、貴重なる用紙の配給を、苟も無意義ならしめることのないやう、臨戰新體制下の月刊誌たる面目を完ふしたいと力めます。會員諸君は愈々本誌を御愛讀下さると共に、廣く愛讀の誌友を御勧誘下さるやう、併せてお願い致します。

十二月

日本幼稚園協會

# 幼稚園遊戯 (四)

東京女子高等師範學校教授

戸 倉 ハ ル

## 時計屋の時計

廣瀬としを 作詞  
坊田かずま 作曲

(一)

前奏四小節(八呼間) 各自自由の方向

をむき、手を胸に交叉して座る。

カツチン 首を左に屈げる。

カツチン 更に右に屈げる。

とけいやのとけい 同じく左、右、左

ミ三回屈げる。

てんでにおててを振つてゐる 右の方

から「カツチンカツチンミけいやの

ミけい」ミ同じく頭を屈げる動作を

続ける。

(二)

カツチン 掌を前にむけ、五指を開い

て臂を左右にひろげる。



カツチン 臂を體前で交叉する。

とけい 次に左右にひろげる。

やの 再び體前で交叉する。

とけい 更に左右にひろげる。

てんでにおててを振つてゐる 前ミ同じ動

作を體前交叉から続ける。

(三)

カツチン 手を交叉して胸にミり、體を左

に大きく屈げる。

カツチン 次に右に大きく屈げる。

とけいやの 再び體を左ミ右に屈げる。

とけい 終りに左に屈げる。

てんでにおててをふつてゐる 前ミ同じ動

作を右の方から始める。

# 時計屋の時計

廣瀬としと作詞  
坊田かずま作曲

The first system of the musical score consists of a vocal line on a single staff and a piano accompaniment on two staves. The key signature has one flat (B-flat) and the time signature is 2/4. The piano accompaniment features a rhythmic pattern of eighth notes in the right hand and chords in the left hand.

The second system includes the vocal line with the lyrics:   
カッ チン カッ チン ト ケ イ ヤ ノ ト ケ イ  
The piano accompaniment continues with the same rhythmic pattern as the first system.

The third system includes the vocal line with the lyrics:   
シ ョ ー テ ニ オ タ タ ラ フ ッ タ キ ル  
The piano accompaniment concludes the piece with a final chord.

# 汽 車

服部正作曲

準備 凡十六人位を一組として一列縦隊に並び、五指を開いてむきあはせ、兩肘を屈げて脇にこり蹲ませる。



動作



前奏二小節(四呼間) 臂を前から

後へ二回まわしながら靜かに立上る。

一—八小節(十六呼間) 一小節に

一回臂をまわし一小節に二歩宛歩いて前進する。

九—十六小節(十六呼間) 一小節に二回臂をまわしスキツ

ブで前進する。

十七—二十四小節(十六呼間) 先頭の二人は兩臂を上にあ

げて連手しトンネルを作る。以下の者は臂を前に舉げ、前者の肩にかけながら、駈歩でトンネルの下をくぐりぬける。同時に二人でトンネルを作り順次トンネルの数を増してゆく。

二十五—三十二小節(十六呼間) 全生一回宛トンネルをく

ぐつたら、一番のトンネルは連手を解き、前方のトンネルの下をくぐつて、臂の車をまわしながらスキツブで前進する。以下のトンネルも順次汽車こなりスキツブで前進する。

# 汽 車

坂部 正 作曲



トシネル

The first system of music consists of two staves. The treble staff contains a series of chords, primarily triads and dyads, with some chromatic movement in the third and fourth measures. The bass staff provides a simple accompaniment with quarter notes and rests.

The second system continues the chordal texture. The treble staff shows a progression of chords, including some with chromatic alterations. The bass staff continues with a steady accompaniment of quarter notes.

The third system introduces more complex rhythmic patterns in the treble staff, featuring eighth and sixteenth notes. The bass staff remains relatively simple with quarter notes.

The fourth system shows further rhythmic complexity in the treble staff with sixteenth-note runs. The bass staff continues with a simple accompaniment.

The fifth system concludes with sustained chords in the treble staff. The bass staff features a melodic line with a slur over the first three measures, ending with a quarter rest.

三十三—三十四小節(四呼間) 臂を二回まわしながら、四

歩歩いて前進する。

三十五—三十六小節(四呼間) 立止つて臂を二回まわしな

がら蹲んで、汽車が停留場で止つた様子を表はす。

### ゆ き

エホンシヤウカ フユノマキ

準備 一列圓を作らせる。

動作 おほゆきこゆきゆきこんこ



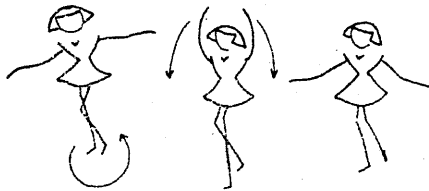
一呼間に二歩の軽い駈歩で圓周上を右に前進する。この時、前に出した足と反對の手を掌を上にして前に舉げ、雪を受ける様子をす。

おやねも 圓心をむき、駈歩四歩で

後へさがりながら兩臂を側から上へ舉げてお屋根の様子をす。

お庭も 圓心へ駈歩四歩で前進しな

がら兩臂を側へおろす。



### ゆきこんこ

その場で駈歩を続けながら

兩臂を前上から掌をひらひ

らさせて左右側へおろす。

雀のお宿も 臂を側に舉げ、輕

く上下に振りながら、駈歩

でその場を左に廻る。

ゆきこんこ 前の「ゆきこんこ」

と同じ動作をする。



# ユキ

エホンシヤウカ フミノマキ

♩ = 84

オホユキコユキ ユキコンコ

The first system of the musical score for 'Yuki'. It consists of a vocal line and a piano accompaniment. The vocal line is written in a single treble clef staff with a 2/4 time signature. The lyrics 'オホユキコユキ ユキコンコ' are written below the notes. The piano accompaniment is written in two staves (treble and bass clefs) and features a steady eighth-note bass line and chords in the right hand.

オヤネモオニハモユキコンコ

The second system of the musical score. The vocal line continues with the lyrics 'オヤネモオニハモユキコンコ'. The piano accompaniment continues with similar rhythmic patterns, including some chordal textures in the right hand.

スズメノオヤドモユキコンコ

The third system of the musical score. The vocal line concludes with the lyrics 'スズメノオヤドモユキコンコ'. The piano accompaniment features more complex chordal textures in the right hand, including some triplets and dense block chords.

お正月

エホンシヤウカ フユノマキ

準備 一例圖を作らせる。  
動作



(一)

お正月が来ると 連手したまゝ圓

心へ八歩進む。

ひとつおとしが 拍手しながら八

歩後退する。

多くなる 親指から順次折屈げて

指折かぞへる様子をする。

うれしいな 左足から左へ三步進

み「な」の時體重を左足にかけ

體を左へ屈指、左側で拍手を

一つする。

うれしいな 右足から右へ二歩進

み「な」の時、右足を側へ出す

と同時に體重を右足にかけて



體を右にまげ、右側で拍手す  
る。

(二)

お正月が来ると 一番の「お正月

が来るぞ」に同じ。

風をあげたり 前上方を見ながら

兩手を交互に前に引いて、風

の絲をたぐる様子をしながら

八歩後退する。

すごろく 兩掌を合はせて、右肩

の邊で軽く振る。

した 同じく左肩で振る。

り「すごろくした」に同じ動作を

繰返す。

うれしいなうれしいな 一番の、

「うれしいなうれしいな」に同

じ動作をする。

♩-108

# オシヤウグワツ

エホシヤウオ アミノマキ

— オ シヤウ グワツ ガ ク ル — ト  
 二 オ シヤウ グワツ ガ ク ル — ト

ヒ ト ツ オ ト — シ ガ オ ホ ク ナ  
 タ コ ラ ア ゲ — タ リ スゴ ロク シ タ

ル ツ レ シ イ ナ ウ レ シ イ ナ  
 リ ウ レ シ イ ナ ウ レ シ イ ナ

# 幼稚園の手技 (四)

及川ふみ

先月號に幼稚園の手技は、種々の保育項目を切りはなすことの出來ない密接な關係のある事を述べた。さくに季節のこともあつたので觀察を手技のことについて取り立て、

かきつらねたのであるが、この外に手技は唱歌、お話なども、觀察同様に相連關して出來るものである。例へば教つた唱歌の一部分を自由畫として發表させて畫き、或はお話を材料として、そのお話の筋の一部分を製作する事も出来る。「幼児の教育」四月號に幼児の自由畫としての由にも記しておいたがお話「因幡の兎」を自由畫の題材としてかゝせたもの、唱歌「小鳥のお話」を題材として畫させた自由畫なども興味のあるものである。

これ等の自由畫は幼児たちが聞いたお話のうちから特に印象に残つた場面である事もあり、又自分の力相應に發表出來得る場面をあらはす時もあり、又最も興味の強かつた部分である事もある。

お話や、唱歌の内容を自由畫として畫きあらはすだけでなく、更にこれを製作物として作ることもある。例へば猿

蟹合戦のお話の一部を立繪にすることなどは、自由畫として猿や蟹その他種々のものを畫き、これを切り取り、糊ではり合せて、この童話の一場面をあらはすことになる。

年少組ではかゝる製作物も極めて簡單で、たゞ自由畫を切り取つて立てる位の程度のものであるが、こんな製作にもなれて度々くりかへしてゐる間には追々に立體的の部分も多くなり、猿の家、或は柿の木などその製作も複雑になつてくる。製作するものが複雑になるにつれ仕事の分量も多くなり仕事をする回数も多くなつてきて何度にも互つて連續してする様にもなつてくる。

この立繪の一例として桃太郎さんをあげておく。

桃太郎、犬、猿、雉、其他草木の類なきを畫かせるのであるが、切り取るのに簡單であるさいふのを本體として参考に一場面の材料をあげておく。

色は任意にぬらしてよいのであるが指導する方であらかじめ色をつけたものを見せてぬらせる事も一つの方法である。

九月號から引きつゞき手技につき、いさゝか考へることを述べてきたのであるがこれを要するに、幼稚園の手技製作は幼児の生活の中に充分に入つてゐなければならぬといふ事がその要諦である。幼稚園の手技はごこまでも幼児たちの遊びの中に作られ、遊びの爲に作るのである。

ある特種の技術を教へ、練習させ、模倣させるのではなく、この意味で出来上つた結果よりもむしろその製作に對する興味を誘導するところに我々の力點をおかなくてはならない。

この製作に對する幼児たちの興味を尊重する點を考慮して手技の材料を選択し、その方法を考慮してごこまでも幼児本意につくるものであつてほしいものである。

### 直接購讀のお願い

最近二三ヶ月前から、本誌は取次店を經て販賣をしないことになりましたから、今迄取次店から御購讀下さつてゐた方々は、是非、本會へ直接御申込み下さい。御申込みには、振替を御利用、前金にて御申込み下さる様御願ひ致します。

(日本幼稚園協會事務係り)

### 豊田英雄女史を悼む

我國最初の幼稚園保姆として、斯界の至寶であつた豊田英雄女史は、今十二月一日、九十七歳の高齡を以て、水戸市の自邸に於て逝去せられました。哀悼にたえまません。女史は明治九年、東京女子高等師範學校の前身たる東京女子師範學校の附屬幼稚園の創設と共に、その保姆として任ぜられ、我國幼稚園教育開拓の勞に當られたのであります。又、明治十二年には、本官のまゝ、鹿兒島に出張を命ぜられ、幼稚園の開設に當られました。今日と異り、幼稚園のことの何等備つてゐなかつたその當時、一切の研究、工夫、創作、如何に御骨の折れたことかと思ふのであります。女史は實によく、その事につくされました。女史の創作の唱歌が今日尙ほ世に存してゐるのを見ても、女史の幼児教育に對する才幹と努力とを想ふのであります。

晩年は、水戸の自邸に、親愛なる御家族の間に、靜に天壽を養ふてゐられましたが、常に嬰孺として、御老齡ともおもへぬお元氣でありました。一昨年、冬、茨城縣保育會主催で女史の御慰安會が催された時など、一同の爲にいろ／＼懷談を下され、力強いお聲で御自作の唱歌を唱つて下さつたことでした。

今、女史を失ふ。眞に至寶を失ふた感であります。御天壽と、今日の我國の幼稚園の發達とは、せめてもの慰めとして女史の御靈前にぬかづき得るところであります。

尙、女史のことに就ては、本誌の第四十卷第二號第二十八卷第十一、第十二號に詳かに掲載致したことがあります。想ひ出として附記して置きます。

(倉橋惣三記)

# 本誌總目錄

## 一月

扉

幼稚園と新體制  
 皇后陛下の御巡覽を幼稚園に仰ぎ奉りて  
 國民學校を前にして幼稚園に望む  
 新體制下の幼稚園  
 まへがき

下村壽	一……一
倉橋惣三	三……二
堀七藏	七……九
倉橋惣三	三……三
廣瀨興	三……三
坂内ミツ	五……五
高濱キミノ	七……七
金原伸子	三……三
草野京	三……三
柴田みどり	三……三
隈井玉子	三……三
山村きよ	三……三
徳久智江子	三……三

保健方面の使命について  
 身體的方面のことについて  
 幼稚園の情操教育  
 當園に於ける幼児の躰について  
 幼稚園の情操教育  
 談話  
 觀察について  
 唱歌遊戲について  
 手技について  
 開園式を擧げ得なかつた東洋幼稚園の開園  
 式の思出

一月の保育  
 各地保育  
 會の活動  
 岩手縣保育會概況

岸邊福雄	三……三
及川ふみ	三……三
高橋タツ	三……三

## 二月

扉

大政翼賛  
 幼児の母  
 月刊「幼児の母」に就て  
 幼児の衛生  
 保育實習科新卒業者

萩原兼文	三……三
武藤光太郎	二……二
倉橋惣三	一……一
松本金壽	八……八
藤田ソヨ	三……三
上澤謙二	六……六
及川ふみ	三……三
のばら	六……六
倉橋惣三	六……六
岸邊福雄	三……三
佐倉シゲ	三……三
萩原兼文	三……三

國民幼稚園の名に於て(一)  
 國民學校の實施を前にして  
 兒童研究法講義(七)  
 年中行事と保育  
 毎日の保育問題  
 二月の保育  
 人形芝居偶感  
 豐田英雄先生御慰會に列して  
 笛と太鼓の保姆養成所(回想の二)  
 第八回全國幼稚園關係者大會委員建議  
 第八回全國幼稚園關係者大會協議題報告  
 各地保育  
 會の活動  
 富山縣保育協會概況  
 幼児の母  
 幼児の衛生(二)  
 保育實習科新卒業者

三月

扉

國民幼稚園の名に於て(二)

兒童研究法講義(八)

科學教育と幼稚園―座談會(一)

毎日の保育問題

三月の保育

ふしぎあそび

各地保育三重縣中部保育會の活動狀況

フドーベル賞入選童話

みづく

子供は風の子

幼兒の母

月刊「幼兒の母」に就て

幼兒の衛生(三)

四月

扉

國民幼稚園の名に於て(三)

科學教育と幼稚園―座談會(二)

防空に關して保姆は何を心得るべきか

毎日の保育問題

幼兒の自由畫

慰問袋―誘導保育の主題―

幼稚園兒のお辨當調査

こどもとチューリップ

各地保育靜岡縣並靜岡市保育會の概況

フドーベル賞入選童話

蛙の子供

鼠さんの雪だるま

月刊「幼兒の母」に就て

幼兒の母

五月

扉

國民幼稚園の名に於て(四)

子供は満三歳で一通り言葉を覚える

幼稚園時代の子供の保健に就て

なあげ?

カズノホンを中心にして鹽野岡書監修官の

教へを乞ふ座談會(一)

國民學校の音楽

毎日の保育問題

第五回フドーベル賞審査發表(幼兒唱歌)

二

及川ふみ……七

徳久智江子……三

山本秋子……四

寺島通子……四

船田ふさ……七

金原伸子……七

吉井正子……三

山本スマ……六

……三

……三

……三

……三

……三

……三

……三

……三

……三

……三

……三

……三

……三

……三

……三

……三

……三

……三

……三

……三

……三

審査員の方々から

當選作品

雨の子供

オ餅搗

蟻の行列

落葉

避難兒童養育所

動物園―誘導保育の主題―

ならびませう

各地保育香川縣保育會概況

會の活動月刊「幼兒の母」に就て

幼兒の母

### 六月

扉

國民幼稚園の名に於て(五)

一幼兒に於ける社會的行動の發達

カズノホンを中心にして鹽野圖書監修官

の教へを乞ふ座談會(二)

人口政策と國民幼稚園

なあぜ?

岸邊福雄……三  
葛原しげる……三  
倉橋惣三……三

井手文子……三

三谷綾子……三

土田千草……三

辻繁……三

志村貞子……三

町田行子……三

上遠文子……三

久住元子……三

……三  
……三  
……三

倉橋惣三……一

依田新子……二

米京子……二

……二

三木安正……三

……三

堀七藏……七

毎日の保育問題

時局下に於ける私立幼稚園關係者の覺悟

國民學校の實施にともなつて

經驗者の言

各地保育北九州保育會概況

會の活動東京保育界の兩先人、河合千代先生・由良

せき先生

フレイベル賞入選童話

お約束

僕の友達

ミツケタ

雨の日に

八百屋遊び―誘導保育の主題―

月刊「幼兒の母」に就て

### 七月

扉

國民幼稚園の名に於て(六)

夏休中の健康保育

なあぜ?

毎日の保育問題

母の會の運営について

上澤謙二……三

藤野井行仁……三

及川ふみ……三

留岡よし子……三

松村茂……三

記者……三

河上フミ……三

毛利家……三

加茂幸子……三

清水光子……三

岩本とよ……三

……三  
……三  
……三

倉橋惣三……一

廣瀬興……二

堀七藏……五

上澤謙二……九

穗積篤子……二五

……二五

……二五



時局下の家庭園を見て

幼稚園でよい子に育てる要綱

養の研究に添へる側面的所感

各地保育會の活動

夜店—誘導保育の主題—

フレーザー賞入選童話

ほぼづき

私のお役目

ドンガラ兵隊

植木屋さん

旗

オヒサマ

金魚

問題の子供に就いて

幼稚園の送り迎へ

月刊「幼児の母」に就いて

幼児の母

八・九月

國民幼稚園の名に於て(七)

幼稚園の健康保育の實際に就いて

幼稚園の遊具(一)

大岩 金……三〇

みどり會研究部案……三〇

倉橋 惣三……三〇

山口 金藏……三〇

三浦 シヅ……三〇

小田 桐孝子……三〇

芝 忠子……三〇

坪山 義枝子……三〇

吉井 正子……三〇

よし 子……三〇

三谷 綾子……三〇

相田 浩利……三〇

沼館 正尾……三〇

久米 京子……三〇

……三〇

……三〇

……三〇

倉橋 惣三……三〇

齋藤 文雄……三〇

佐々木 等……三〇

保姆養成に關する意見の調査

秋の家庭蔬菜園

幼児の音楽教育に就いて

影繪—誘導保育の主題—

養・母の指導について(回答)

赤とんぼのはなし

或る幼児の生活の一端について

各地保育會の活動

時局と子供

月刊「幼児の母」に就いて

幼児の母

誌上保育講習

國民學校と幼稚園保育の實際

國民學校國民科指導の精神

國民學校藝能科音楽に就いて

幼稚園遊戯

幼稚園手技

十月

國民幼稚園の名に於て(八)

幼稚園の遊具(二)

愛育研究會……三〇

大岩 金……三〇

みどり會音楽研究部……三〇

須子 啓子……三〇

赤岸 幸輔……三〇

安村 ふさ……三〇

小山田 節……三〇

小林 良子……三〇

……三〇

……三〇

倉橋 惣三……三〇

竹下 直之……三〇

小松 耕輔……三〇

戸倉 へる……三〇

及川 ふみ……三〇

……三〇

……三〇

倉橋 惣三……三〇

佐々木 等……三〇

なあげ？

蔬菜園の周圍境界を利用して  
子供隣組―誘導保育の主題―  
國史によせる心

各地保育  
會の活動  
臺灣保育會  
月刊「幼兒の母」に就て

幼兒の母

堀 七 藏 ……五

大 岩 金 ……九

村 上 露 子 ……二

志 村 貞 子 ……四

竹 下 ヲ ル ……六

……三

……三

誌上保育講習

國民學校と幼稚園保育の實際

國民學校國民科指導の精神

幼稚園遊戯

幼稚園手技

倉 橋 惣 三 ……元

竹 下 直 之 ……三

戸 倉 ハ ル ……三

及 川 ふ み ……三

十一月

扉

國民幼稚園の名に於て(九)

幼稚園の遊具(三)

國民學校藝能科音樂の本旨、實際及音感教育

戶外遊び(二)三三

幼稚園のお庭―誘導保育の主題―

各地保育  
長野縣保育所の傾向について

倉 橋 惣 三 ……一

佐 々 木 等 ……三

井 上 武 士 ……六

古 澤 靜 子 ……三

町 田 行 子 ……四

鈴 木 鳴 海 ……六

幼兒の母

誌上保育講習  
國民學校と幼稚園保育の實際

國民學校國民科指導の精神

幼稚園遊戯

幼稚園手技

……三

倉 橋 惣 三 ……三

竹 下 直 之 ……三

戸 倉 ハ ル ……四

及 川 ふ み ……五

十二月

扉

國民幼稚園の名に於て(十)

幼稚園の遊具(四)

國民學校藝能科音樂の本旨、實際及音感教育

慰問品のお店―誘導保育の主題―

數あそび

各地保育  
會の活動  
大分縣保育會の概要

幼兒の母

倉 橋 惣 三 ……一

佐 々 木 等 ……三

井 上 武 士 ……五

安 村 ふ さ ……〇

上 遠 文 子 ……三

天 門 成 章 ……五

……七

誌上保育講習

國民學校と幼稚園保育の實際

國民學校國民科指導の精神

幼稚園遊戯

幼稚園手技

倉 橋 惣 三 ……三

竹 下 直 之 ……三

戸 倉 ハ ル ……三

及 川 ふ み ……五

倉橋惣三著

定價 送料

# 育ての心

東京、神田區駿河臺三丁目六

刀江書院

倉橋惣三著

# 幼稚園保育法眞諦

東京、神田區神保町一丁目六七

東洋圖書株式會社

倉橋惣三著  
新庄よしこ共著

# 日本幼稚園史

三、八〇〇、二〇  
同上

倉橋惣三著

# 幼稚園雜草

東京、日本橋區、大傳馬町

二、五〇〇、一四  
内田老鶴圃

日本幼稚園協會編

# 幼兒に聽かせるお話

三、八〇〇、一四  
同上

日本幼稚園協會編

# 幼兒の樂しむお話

二、八〇〇、一四  
同上

## 最新 幼稚園唱歌集

定價 送料  
發行所 日本幼稚園協會

### 目次

- 一、コッキフレ 倉橋惣三作詞 十二、たんぼぼ 大森敏子作詞
- 二、幼稚園のお庭 倉橋惣三作詞 十三、すずめ 高城當子作詞
- 三、だるまさん 小松正作詞 十四、チュリップ 久保政子作詞
- 四、お洗濯 相田多作詞 十五、春が来た 池田孝二作詞
- 五、汽車 土田晋平作詞 十六、貝拾ひ 宅富貴子作詞
- 六、雪よ降れ降れ 中山繁作詞 十七、うさぎ 高城當子作詞
- 七、煙 津村孝二作詞 十八、七五三 高城當子作詞
- 八、てんとう蟲 坊田かつま作詞 十九、鬼ごっこ 高城當子作詞
- 九、春 小林あき作詞 廿一、お母さま 高城當子作詞
- 十、お窓の雨 吉田トミ作詞 廿二、てんてん 高城當子作詞
- 十一、小鳥のおはなし 弘田龍太郎作詞 廿三、おんまり 高城當子作詞
- 十二、おはなし 高城當貴子作詞 廿四、春の野花 宅富貴子作詞

最新 幼稚園唱歌集の第二版が出来ました。本會宛てに御注文下さい。御注文の際は是非前金にてお申し込み下さい。

日本幼稚園協會

# 日本幼稚園協會編輯 幼兒の教育

會長 東京女子高等師範學校長 下村 壽一  
 主幹 東京女子高等師範學校教授 附屬幼稚園主事 倉橋 惣三

## 日本幼稚園協會規則

第一條 本會ハ幼兒教育ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第二條 本會ハ日本幼稚園協會ト稱ス

第三條 會員タラントスルモノハ幼稚園ニ關係アルモノ又ハ幼兒教育ニ篤志ナルモノトス

第四條 會員ハ會費トシテ一ヶ月金參拾五錢ヲ齎出スヘシ、會員ハ無料ニテ本會發行雜誌ノ配布ヲ受ケ又本會ノ事業ニ關シ諸種ノ便宜ヲ受ケ

第五條 令聞名望アル人ニシテ本會ノ事業ニ裨益アリト認ムルトキハ特ニ請ヒテ客員トナスコトアルヘシ

第六條 幼稚園ニ關係アルモノニシテ本會ノ事業ノ爲ニ特ニ盡力ヲ與ヘラル、モノニ請ヒテ地方委員トナスコトアルヘシ

第七條 本會ハ毎年一回總會ヲ開ク但場合ニヨリ臨時休會スルコトヲ得

第八條 本會ハ左ノ事業ヲ行フ  
 一、幼兒教育ニ關スル研究及ヒ調査  
 一、幼兒教育ニ關スル講演會及ヒ講習

會ノ開催

一、雜誌發行(毎月一回)

一、幼兒教育ニ關スル圖書發行  
 一、保姆就職及招聘ニ關スル仲介  
 一、其他本會ノ目的ニ裨益アリト認メタル事件

第九條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク  
 會長 一名 會務ヲ總理ス  
 主幹 一名 會長ヲ補佐シテ會務ヲ掌理ス  
 幹事 若干名 會長ノ指揮ヲ受ケ會務ヲ分掌ス  
 評議員 若干名 重要ナル事件ニ關シ會長ノ諮詢ニ應ス

第十條 會長ハ客員中ヨリ推薦スルモノトス  
 會長ハ必要ニ應シ特ニ委員ヲ設ケ又ハ書記ヲ雇入ル、コトアルヘシ

第十一條 主幹 幹事 評議員ハ二ヶ年ヲ期シテ會長ヨリ推舉スルモノトス

第十三條 本規則ハ總會出席會員ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルニアラサレハ變更スルコトヲ得ス

### 定價

一ヶ月分	金參拾五錢	特等面一頁	二等面一頁
六ヶ月分	金貳拾圓	金貳拾圓	金拾圓
一年分	金四圓貳拾錢	一等面一頁	御一新頁以下
拾貳冊送	金四圓貳拾錢	金拾五圓	御一新頁以下
拾貳冊送	金四圓貳拾錢	神田區駿河臺ノ三品田	廣告社に御申込下さい

(外國行郵税は一部金拾貳錢の割にて御拂込下さい)  
 昭和十六年十一月二十八日印刷本  
 昭和十六年十二月一日發行  
 幼兒の教育 第四十一卷 第十二號

### 不許複製 禁止轉載

編輯者 倉橋 惣三  
 發行所 東京市本郷區駒込林町百七十二番地  
 印刷者 柴山 則常  
 東京市本郷區駒込林町百七十二番地  
 印刷所 倉橋 杏林 舎

### 發行所 日本幼稚園協會

東京市小石川區大塚町三十五  
 東京女子高等師範學校附屬幼稚園内  
 振替口座東京一七二六六番

### 注 文 規 定

- 一、本誌御注文の方は凡て前金(郵税共)で願ひます。(郵券代用の場合は總て一割増)
- 一、御送金の場合はなるべく振替貯金で振替口座東京一七二六六番日本幼稚園協會宛に願ひます。
- 一、送金の節には第何巻第何月號より第何月號迄と明記せられたし。
- 一、本誌の代金に對しては別に領收證を差出しません。特に御入用の方は往復はがきで御申越願ひます。
- 一、會費切又は前金切の際にはその最終發送の雜誌の帶封に「前金切」の印章を押捺いたしますから其節は早速御送金を願ひます。
- 一、本誌の見本御入用の場合には前金參拾五錢發送を願ひます。

# 目書行發館ルベールフ

書導指たき生るけ於に育教兒幼  
書良つ立役に直に上育保の際實



## 保 育 叢 書

倉橋惣三先生監修

四六判 總布本  
各册定價 金一圓  
送料 六錢

第一編 幼兒の 人形芝居脚本

菊池ふじの先生共著  
徳久孝子先生著

第二編 自然物おもちゃ

膳眞規子先生著

第三編 幼稚園の 手技製作

及川ふみ先生著

第四編 實驗 保 育 學

和田實先生著

幼兒性行評定尺度

淡路圓治郎先生著

定價 金 一圓  
送料 金 六錢

幼兒發達検査

淡路圓治郎先生  
牛島義友先生共著  
吉田虎彦先生

定價 金 一圓  
送料 金 六錢

農繁託兒所の經營

倉橋惣三先生共著  
緋田工先生

定價 金 三圓  
送料 金 廿錢

實地踏査に基づく フレーベル全傳

高市慶雄先生著

定價 金 一圓五十錢  
送料 金 六錢

幼稚園律動遊戲曲譜集

大阪市保育會編

全定價 金 二圓  
圓册

附 競記憶感覺爭遊戲・動作篇

構成々々を主としたる 幼稚園遊戲の保育要諦

大阪市幼稚園共同研究會第六區編

第一卷 動作集 (金三圓)・第二卷 曲譜集 (金二圓)

子供の舞踊

石井漠先生著

定價 金 二圓五十錢  
送料 金 十錢

シルエットの作り方

鈴木重章先生著

定價 金 一圓  
送料 金 六錢

# 館育保本日社會式株

社本 所張出  
京東 田神・神保二町・電話(33) 三六六二番  
阪大 區東・後備五町・電話(24) 一三九八番